令和4年度 事業報告

令和4年度は、昨年度薬剤師認定制度認証機構(CPC)から認証を受けた研修認定制度が始動したことに伴い、東京都のみならず、全国の薬剤師からの研修認定薬剤師申請を受け付け、会員の皆様にとってより身近な存在である東京都薬剤師会が認定機関としての役割を果たすべく、すべての薬剤師の生涯学修を支える体制を整えることができました。また、認定に必要な研修会・講習会の開催については、地区薬剤師会をはじめとする主催者側にとって、わかりやすく使いやすい運用を目指して説明や微調整を重ね、より利便性の高い研修認定制度となるよう取り組んでまいりました。一方で生涯研修プログラムにおけるコンテンツの提供は計画より遅れている状況であり、ご迷惑をおかけしている点につきましてはお詫び申し上げ、早期の運用を図ってまいります。

令和4年度半ばより、国が構築を急ぐオンライン診療に伴う電子処方箋応需体制に係る基盤整備を加速するために様々な通知が発出されました。これらに対応するため、令和5年1月から運用が開始された電子処方箋における電子署名に必要な薬剤師資格証(HPKI)については、地区薬剤師会と連携をとり、多くの薬剤師が迅速に受け取れるよう体制の整備を行ってまいりました。

新型コロナウイルス感染症は、オミクロン株に移行後の流行も現在は小康状態ですが、未だ予断を許しません。東京都薬剤師会では、東京都が開設したコロナワクチン大規模接種会場に於いての委託点検業務をはじめ、地域のワクチン接種会場においても地域薬剤師会と連携し、東京都に意見具申を継続し、都民への安全なワクチン提供体制整備と、都民の重症化予防の一翼を担うことができました。またコロナ治療薬の交付、PCR検査や抗原定性検査キットの販売等を通じ、地域における薬剤師・薬局の姿を都民に認知いただけたものと自負しております。今後、5 類感染症として位置づけられた後も、会員の皆様のご協力の下、引き続き感染拡大防止に尽力してまいります。

令和4年度もコロナ禍の感染状況に応じて少なからぬ影響を受けました。その中にあっても、東京都薬剤師会は薬剤師・薬局の一助となるべく以下の活動テーマに沿って、記載の事項に対応してまいりました。

【活動テーマ】

「更なる地域貢献を目指して~生涯学修に取り組もう~」

【重点項目】

- 「地域連携薬局」、「専門医療機関連携薬局」の認定取得に向けた支援
- 都薬生涯学修プログラムの拡充及び都薬生涯研修認定制度の利用推進
- 新興感染症対策を含めた、「新型インフルエンザ等対策」の推進
- 災害時医療救護に係る次世代「災害時薬事活動リーダー」の養成
- 地域包括ケア(切れ目のない薬物療法の提供)に向けた薬・薬連携の推進
- 対人業務の充実に向けた ICT の利活用やデジタル化への対応
- 健康サポート機能、適切な医薬品提供体制構築に関する薬局製剤の普及

第1 一般会務報告

1.	会員	数 6,781 名(令和 5 年 3 月 31 日現在)	資料	ł 1]
2.	会静	6等開催状況		
	(1)	総会(第 101 回通常総会、第 102 回臨時総会)		2回
	(2)	総会議事運営委員会		4回
	(3)	役員選挙管理委員会		1回
	(4)	代議員選挙管理委員会		1回
	(5)	東京選挙区日薬代議員打合せ会		2回
	(6)	「都薬功労賞」授賞者選考委員会		1回
	(7)	令和4年度都薬功労賞授賞式		1回
	(8)	賀詞交歓会(令和4年度各賞受賞者祝賀会)		1回
	(9)	地区及び職域薬剤師会会長会	1	1回
	(10)	業界紙(誌)共同取材·定例記者会見	1	0回
	(11)	理事会	2	3回
	(12)	会長・業務執行理事打合会	2	2回
	(13)	正副会長打合せ会		5回
	(14)	担当役員会	2	5回
	(15)	常置委員会(小委員会含む)	9	3回
	(16)	特別委員会(小委員会含む)	1	1回
	(17)	監事監査会		4回
	(18)	顧問・相談役会		2回
	(19)	都薬共済会監査会		1回
	(20)	東京都三師会		1回
	(21)	臺北市藥師公會・東京都薬剤師会姉妹会締結調印式		1回
	(22)	HPKI の取得促進のための地区薬剤師会における交付に関する実務説明会	:	1回
	(23)	薬学生の声を聴く会		3回
	(24)	薬事衛生自治指導員全体講習会		1回
	(25)	薬学講習会		1回
	(26)	基準薬局中央研修会		1回
	(27)	かかりつけ薬剤師研修会		1回
	(28)	薬局業務研修会		1回
	(29)	臨床薬学講座		1回
	(30)	登録販売者研修会		3回

(31)	高度管理医療機器等営業所管理者等継続研修会	1回
(32)	オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会	1回
(33)	「実務実習受入薬局」伝達講習会	1回
(34)	薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議	1回
(35)	認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	3回
(36)	認定実務実習指導薬剤師 養成講習会	1回
(37)	認定実務実習指導薬剤師 更新講習会	1回
(38)	認定実務実習指導薬剤師ためのアドバンストワークショップ	1回
(39)	より質の高い実務実習を目指すためのアドバンストワークショップ	3回
(40)	学校薬剤師東京ブロック連絡会議	1回
(41)	学校薬剤師研修会	1回
(42)	公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会	1回
(43)	アンチ・ドーピング活動地区薬剤師会指導者講習会	1回
(44)	禁煙支援薬剤師認定審査会	2回
(45)	無菌調製技能習得研修会(講義·実習)	3回
(46)	無菌調製技能習得研修会「ステップアップ研修」	1回
(47)	東京都・品川区総合防災訓練	1回
(48)	災害時薬事活動リーダー研修	2回
(49)	在宅療養多職種連携研修会	1回
(50)	地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業	
	地区担当者会議	1回
(51)	在宅訪問ステップアップ研修会	3回
(52)	薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会	1回
(53)	医療保険指導者養成講座	1回
(54)	健康サポート薬局のための技能習得型研修≪研修会A≫	2回
(55)	健康サポート薬局のための技能習得型研修≪研修会B≫	1回
(56)	直扱会員都薬アワー	1回
(57)	「かかりつけ薬局育成事業」編集会議	1回
(58)	東京都薬剤師認知症対応力向上研修	2回
(59)	認知症サポート薬剤師 e-ラーニング講座面接授業	1回
(60)	薬薬連携推進事業担当者説明会	1回
(61)	薬薬連携推進関係者連絡会	1回
(62)	薬薬連携推進研修会	1回
(63)	東京都がん薬物療法協議会~三団体合同薬薬連携推進研修会~	2回
(64)	薬局製剤研修会	4回
(65)	薬剤師のための予防接種研修会	3 回

(66) 漢方 Web 講座 5回

(67)「地域薬学ケア専門薬剤師制度」に係るマッチング調整会議 2回

(68) 生涯研修認定制度地区担当者説明会 1回

3. 役員の公的機関等への参画

【東京都福祉保健局 関連】

東京都医療審議会 : 永田会長東京都薬事審議会 : 永田会長

東京都国民健康保険運営協議会 : 永田会長

東京都後発医薬品安心使用促進協議会 : 永田会長

東京都保健医療計画推進協議会 : 髙橋副会長

東京都感染症医療体制協議会 : 髙橋副会長

東京都エイズ専門家会議 : 一瀬副会長

東京都健康推進プラン 21(第二次)推進会議 : 小野常務理事

東京都アレルギー疾患対策検討委員会 : 小野常務理事

自殺総合対策東京会議 : 小野常務理事 東京都災害医療協議会 : 貞松常務理事

精神疾患地域医療連携協議会 : 篠原常務理事

東京都がん対策推進協議会 : 篠原常務理事 東京都医療安全推進協議会 : 篠原常務理事

医療情報に関する理解促進委員会 :篠原常務理事

東京都大気汚染医療費助成検討委員会 :根本常務理事

救急医療対策協議会 : 根本常務理事

外国人患者への医療等に関する協議会 : 根本常務理事 東京都高齢者保健福祉施策推進委員会 : 森田常務理事

東京都糖尿病医療連携協議会 : 犬伏理事

東京都社会福祉審議会臨時委員(身体障害者福祉分科会) : 小林理事

東京都災害時こころのケア体制連絡調整会議 : 三溝理事

東京都災害時こころのケア体制連絡調整会議災害精神科医療体制作業部会

: 三溝理事

東京都在宅療養推進会議 : 髙松理事

東京都特殊疾病対策協議会 在宅療養・医療連携支援対策部会 : 髙松理事

東京都要保護児童対策地域協議会代表者会議 : 田極理事

東京都食品安全情報評価委員会「健康食品」による健康被害事例専門委員会

: 町田理事

東京都難病対策地域協議会 : 松本理事

東京都がん対策推進協議会「がん計画推進部会」及び「緩和ケアワーキンググループ」 : 松本理事

東京都結核対策技術委員会 : 和田理事

【東京都病院経営本部】

東京都保健医療公社評議員 : 永田会長

東京都都立墨東病院運営協議会 : 濵野常務理事

東京都立東部療育センター運営協議会 : 濵野常務理事

東部地域病院運営協議会 : 和田理事

【東京都総務局】

東京都防災対策推進 WG(危機管理対策 WG ソフト対策) : 永田会長

【青少年治安対策本部】

東京都子供応援協議会 : 永田会長、上野副会長

【関連団体】

一般社団法人薬学教育協議会 WEB システム検討委員会 : 永田会長

社会保険診療報酬支払基金東京支部幹事会参与 : 永田会長

東京都保険者協議会 : 山田副会長

公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター理事 : 山田副会長

OTC 医薬品普及啓発イベント

「よく知って正しく使おう OTC 医薬品」実行委員会 : 小野常務理事

卒後臨床研修の効果的な実施のための調査検討事業実施法人選定審査委員会

: 小野常務理事

東京都後期高齢者医療懇談会 : 根本常務理事

東京都医師会 東京都多職種連携連絡会 :根本常務理事

東京都医師会 タバコ対策委員会 : 小野常務理事

東京都医師会 地域包括ケア委員会 : 濵野常務理事

東京都医師会 東京都糖尿病対策推進会議 : 犬伏理事

東京都区西部緩和ケア連携推進事業運営委員会 : 髙松理事

薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構委員 : 田極理事

第2 事業活動の概要

1. 薬剤師行動規範並びに薬事・医療関連法規の趣旨の周知と遵守の徹底

一般用医薬品等の適正使用の推進及び供給体制整備の周知・徹底を図るため、薬機 法改正の動向に対応した資料を作成し配布すると共に各種講習会(薬事衛生自治指導員 全体講習会、基準薬局中央研修会、地区薬剤師研修会、管理薬剤師研修会、薬局薬剤 師のためのコンプライアンス研修会)など、機会を捉え情報発信に努めた。また同様に 薬剤師としての倫理及び薬事・医療関連法規の趣旨の周知を図った。

2. 薬剤師職能及び薬局機能対策

2-1 薬剤師資質向上対策(薬学振興対策)

(1)「患者のための薬局ビジョン」を踏まえた、かかりつけ薬剤師育成事業の実施

患者や地域住民の医薬品の適正使用のみならず公衆衛生の向上及び健康な生活の確保のための情報提供や相談窓口となるなど「かかりつけ薬局」及び「かかりつけ薬剤師」の定着を図ることを目的に、平成12年度以来毎年「かかりつけ薬剤師研修会(平成28年度までの研修会名称は「かかりつけ薬局研修会」)を開催している。

【かかりつけ薬剤師研修会】(旧 かかりつけ薬局研修会)

令和4年度当会の各種研修会は、「更なる地域貢献を目指して~生涯学修に取り組も う~」を活動テーマとし、かかりつけ薬剤師研修会を下記のとおり開催した。

開催日時:令和4年11月13日(日) 12:30~16:00

開催方法:集合・配信ハイブリッド開催(会場:御茶ノ水 sola city Hall)

受 講 者:会場 276 名(うち、会員 228 名)、配信 913 名(うち、会員 734 名)

内容:

司会:東京都薬剤師会 理事 浅井 和範

1. 開会挨拶

東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 糖尿病の病態、診断、薬物療法

地方独立行政法人東京都立病院機構

東京都立多摩総合医療センター 内分泌代謝内科 部長 辻野 元祥

3. 糖尿病療養支援の全体像 病院薬剤師の役割

杏林大学医学部付属病院 薬剤部 副部長 小林 庸子

4. 『指導』しない療養指導~コミュニケーションから考える糖尿病療養支援~ 国立がん研究センター中央病院 総合内科(糖尿病腫瘍科)科長 大橋 健 5. 糖尿病医療を地域のチーム連携で支える「日本型アッシュビルプロジェクト」 医薬連携とその発展~医師の立場から

医療法人社団ユスタヴィア 多摩センタークリニックみらい 院長 藤井 仁美

- 6. 糖尿病性腎症 重症化予防 薬局での取り組み〜保険薬局の果たすべき役割〜 株式会社大和調剤センター 代表取締役/中央薬局 森 貴幸
- 7. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

(2) 禁煙支援薬剤師認定制度の推進

平成23年10月より、e ーラーニングを活用した都薬独自の禁煙支援薬剤師認定制度の運用を開始し、令和5年3月末時点で522名の受講申込があった。また、令和4年8月に第20回、令和5年2月に第21回認定審査会を開催した。これまでに禁煙支援薬剤師として計176名を認定した。

(3) 都薬生涯学修プログラムの拡充

薬剤師が専門性の高い臨床実践能力、並びに問題解決型思考を修得するためには系統立てた研修プログラムの立案が重要であると考え、特に広範かつ継続的な医療の提供が必要とされる医療計画における5疾病について、基礎から実務に至るまでの学習コンテンツを作成し、自身の能力の不足部分を確認したうえで、学習すべきコンテンツを取捨選択しながら補うことができる、生涯学修カリキュラムを構築した。また当該カリキュラムに則った生涯学修を推進するため、本会が主催する主要な研修会等のプログラムについて検討を行うとともに5疾病の基礎薬学等に該当する学習コンテンツの作成を推進した。

まず、本会が令和4年度に開催する主要な研修会において、5疾病を対象とした臨床薬学・薬学実務に該当する研修を企画した。具体的には、令和4年8月28日に開催した「薬学講習会(テーマ:不整脈)」、同年11月13日に開催した「かかりつけ薬剤師研修会(テーマ:糖尿病)」、令和5年1月29日に開催した「薬局業務研修会(テーマ:心不全)」等において講演を行い、より実践的な最新の薬物療法を修得する研修会とした。また、基礎薬学・医療薬学を中心とした繰り返し学習に資するeーラーニング学習においてはオンデマンドコンテンツの作成に向け検討を行い、昭和大学との共同プロジェクトである呼吸器・アレルギー疾患をはじめ不整脈や糖尿病に関するコンテンツの作成を進めた。更に、これらのオンデマンドコンテンツを配信するための学習管理システムとして、「tーMYLS(tーマイルス)」(Tokyo pharmaceutical association – MY Lifelong learning System)の構築も同時に推進した。tーMYLSについては、コロナ禍の状況により、サーバー機器等の確保が困難となり、令和5年度から運用を開始する予定であるが、更なるコンテンツの拡充に向け準備を進めている。

なお、現時点においては、禁煙支援薬剤師認定制度(2-1 (2) 参照)に続く生涯 学習プログラムとして、平成 27 年から「認知症サポート薬剤師 e ーラーニング講座」を 都薬ホームページにて公開している。また、e ーラーニング講座を受講した方を対象と して、さらに学びを深め、認知症サポーターとしての知識を習得することを目標とした スクーリングをこれまでに 6 回実施している。

その他、令和4年度の生涯学修プログラムの一環として、株式会社ツムラとの共催により、漢方 Web 講座 (全5回)を Web (Zoom ウェビナー)配信した。

【認知症サポート薬剤師 e-ラーニング講座面接授業】

開催日時:令和4年5月22日(日) 12:30~16:30

開催場所:慶應義塾大学薬学部芝共立キャンパス 2号館4階460大講堂

参 加 者:36名 修了証授与:36名

内 容:

総合司会:東京都薬剤師会 理事 浅井 和範

1. 開講挨拶 東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

2. 認知症サポーター養成講座(講義)成年後見制度・「薬剤師としての認知症サポーターとは」

キャラバンメイト/東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員長 齋藤 公子

3. グループ討議 I・全体発表

「認知症(疑いのある)ご本人や家族、他職種と対応する上で印象に残っていること」 東京都薬剤師会 生涯学習委員会

4. 講演

「前を向いて楽しく生きていきたい」 講師 (認知症ご本人) 林下 敦 「活動を通して学んだこと」 講師 (パートナー/看護師) 柏木 とき江

5. グループ討議Ⅱ・全体発表

「認知症(疑いのある)ご本人や家族、他職種に対して、薬剤師として、もっとできること。してみたいこと。」 東京都薬剤師会 生涯学習委員会

- 6. 質疑
- 7. 決意表明「明日から取り組むこと」(グループ内発表)
- 8. 修了証授与及び閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

【漢方 Web 講座 第1回】

開催日時: 令和4年9月21日(水) 19:00~20:40

参加者:73名

内 容:「上腹部不定愁訴」「服薬指導」

講師:株式会社ツムラ 東京支店医薬情報課 信定 福明

【漢方 Web 講座 第2回】

開催日時: 令和4年10月26日(水) 19:00~20:40

参加者:68名

内 容:「便秘/腹部膨満感」「副作用①」

講師:株式会社ツムラ 東京支店医薬情報課 信定 福明

【漢方 Web 講座 第3回】

開催日時: 令和4年11月30日(水) 19:00~20:40

参 加 者:73名

内 容:「不眠症」「副作用②」

講師:株式会社ツムラ 東京支店医薬情報課 信定 福明/町井 友美

【漢方 Web 講座 第4回】

開催日時: 令和4年12月21日(水) 19:00~20:40

参 加 者:54名

内 容:「高齢者にみられる症状」「飲み方の工夫」

講師:株式会社ツムラ 東京支店医薬情報課 信定 福明/町井 友美

【漢方 Web 講座 第5回】

開催日時:令和5年1月25日(水) 19:00~20:40

参 加 者:46名

内 容:「漢方医学概論」「漢方製剤の品質について」

講師:株式会社ツムラ 東京支店医薬情報課 信定 福明

(4) 日本薬剤師会生涯学習支援システム (JPALS) 及び都薬生涯研修認定制度の利用 推進

平成24年4月より、日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)がスタートした。 平成26年5月には、JPALSのポートフォリオ(実践記録)の記載をより容易とするために「実践記録シート」を作成して都薬ホームページ上に掲載し、地区薬剤師会にもその活用を促している。本会で開催する主な講習会においては、プログラム等にJPALSコードを記載し、また、「実践記録シート」を配布するなど、JPALS利用者の利便を図るよう努めた。

令和4年2月18日に、公益社団法人薬剤師認定制度認証機構の認証を取得した、本会生涯研修認定制度の利用促進に向けては、令和4年4月2日に「「東京都薬剤師会生

涯研修認定制度」地区担当者説明会」(地区薬剤師会参加者数:59名)を開催し、認定薬剤師、並びに認定研修会の申請方法等について説明を行い、会員への周知等を含め、改めて協力を依頼した。また、ホームページをはじめ、都薬雑誌での広報、業界紙である「薬事日報 薬剤師のスキルアップと生涯学習特集号」(令和4年7月15日号)への広告掲載や、令和4年度に開催した第1回・第2回地区薬剤師研修会においても、昨年度に引き続き、本会の生涯学習プログラムの概要を含め、同制度を活用することのメリット等について広く周知を行った。その結果、令和4年度には、本会が認定し研修単位を発行した研修会等が402回開催(内訳 1単位:315回、2単位:74回、3単位:11回、4単位:2回)され、合計23,220枚の研修単位(内訳 1単位:13,754枚、2単位:8,718枚、3単位:668枚、4単位:80枚)を配付する等、認定薬剤師の養成に貢献した。また、令和4年度に本会が認定した認定薬剤師は延べ600名(内訳 新規:118名、更新:482名)であった。

(5) 薬学講習会等各種講習会の開催

① **臨床薬学講座の開催**: 令和 4 年度の臨床薬学講座は、少人数による実習中心の研修会を1回開催した。

【第1回臨床薬学講座】

開催日時:令和4年10月30日(日) 13:00~17:30 開催場所:星薬科大学 第二新館2F 第2実習室

受 講 者: 45 名 (会員 40 名)

内 容:「PEG・PTEG 造設手技への理解と簡易懸濁法について」

司会:東京都薬剤師会 学術委員会 委員 藪下 健太郎 座長:東京都薬剤師会 学術委員会 委員 加藤 一郎

開会挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 篠原 高雄

<講 義>

1. PEG や PTEG などの経管経腸栄養法の適応と造設法および管理の実際

講師:独立行政法人 国立病院機構 村山医療センター 外科 統括診療部長 大石 英人

2. 摂食嚥下障害について

講師:東京都薬剤師会 学術委員会 副委員長 近藤 幸男

<実 習>

1. PEGやPTEGなどの経管経腸栄養法の造設法について

講師:独立行政法人 国立病院機構 村山医療センター

外科 統括診療部長 大石 英人

協力企業:オリンパスマーケティング株式会社医療事業本部

SB カワスミ株式会社戦略事業統括部 ニュートリー株式会社営業本部 ニプロ株式会社国内商品開発・技術営業本部

2. 摂食嚥下障害について

講師:東京都薬剤師会 学術委員会 副委員長 近藤 幸男 社会福祉法人東京有隣会 有隣病院 薬剤科 奥野 靖隆 社会福祉法人東京有隣会 有隣病院 薬剤科 渡邊 愛

閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 一瀬 信介

② 薬学講習会の開催

令和4年度は、不整脈をテーマに薬学講習会を下記のとおり開催し、多数の会員の参加を得た。また、薬局における医療安全管理については、患者の訴えから副作用を推察するための臨床推論について講演が行われた。

【薬学講習会】

開催日時:令和4年8月28日(日)13:00~16:35

開催場所:「東京国際フォーラム ホール A」

受 講 者:1,277名(会員1,044名)

内 容:

司会:東京都薬剤師会 理事 浅井 和範

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 最近の薬務行政について

東京都福祉保健局健康安全部 薬務課長 中島 真弓

3. 薬剤師に知って欲しい!-不整脈診療における抗不整脈薬の位置づけと使用するう えでのノウハウ-

東邦大学医学部内科学講座循環器内科学分野 教授 池田 隆徳

4. 医療安全管理講座/患者の訴えから副作用を推察するための臨床推論

東京薬科大学 医療実務薬学教室 准教授 川口 崇

③ 令和4年度基準薬局中央研修会の開催

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、集合研修及びオンライン研修により、7月に基準薬局中央研修会を下記のとおり開催した。

【令和4年度基準薬局中央研修会】

開催日時:令和4年7月3日(日) 12:30~16:10

開催場所:有楽町よみうりホール

開催方法:集合研修及びオンライン研修

受講者:1,119名

·集合研修 254 名(内、会員外 14 名)

・オンライン研修 835 名 (内、会員外 29 名)

内容:

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 令和4年度調剤報酬改定を踏まえた薬局での対応について

公益社団法人 日本薬剤師会 副会長 森 昌平

3. 患者中心の業務とは ~薬剤交付後の薬局ヒヤリ・ハット事例を中心に~ 公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部 大野 郁子

4. 地域連携薬局・専門医療機関連携薬局の認定状況について

東京都健康安全研究センター 広域監視部薬事監視指導課

統括課長代理(連携薬局担当) 水野 正彦

5. 東京都薬剤師会 生涯研修認定制度について

東京都薬剤師会 常務理事 宮川 昌和

④ 東京都薬剤師認知症対応力向上研修の開催

認知症の早期発見や医療における認知症への対応力を高め、地域において薬局・薬剤師が認知症の人への支援体制構築の担い手となることを目的として、東京都の委託により開催している。今年度も昨年度に引き続きコロナ禍を考慮してオンライン開催とし、下記のとおり2回ライブ配信を実施した。

【令和4年度 東京都薬剤師認知症対応力向上研修 第1回】

開催日時:令和4年10月29日(土)15:00~18:40

開催方法:ライブ配信(zoom ウェビナー)

受講者:392名

内 容:

司会:東京都薬剤師会 理事 浅井 和頼

1. 開会・主催者挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

東京都福祉保健局高齢社会対策部 認知症対策担当課長 西川 篤史

2. 認知症への基本的な理解

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 笠原 徳子

3. 薬局・薬剤師と地域包括支援センターの連携について

社会福祉法人三鷹市社会福祉事業団 三鷹市大沢地域包括支援センター センター長 香川 卓見

4. 認知症のかたに対して薬剤師に求められること~薬学的管理と関係機関との連携~ 東京都健康長寿医療センター 薬剤科係長 谷古宇 美佳

【令和4年度 東京都薬剤師認知症対応力向上研修 第2回】

開催日時: 令和4年11月27日(日)9:00~12:40

開催方法:ライブ配信(zoom ウェビナー)

受講者:488名

内 容:

司会:東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

1. 開会・主催者挨拶

東京都福祉保健局高齢社会対策部 認知症対策担当課長 西川 篤史 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 認知症への基本的な理解

東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 伊集院 一成

3. 薬局・薬剤師と地域包括支援センターの連携について

社会福祉法人三鷹市社会福祉事業団 三鷹市大沢地域包括支援センター センター長 香川 卓見

4. 認知症のかたに対して薬剤師に求められること~薬学的管理と関係機関との連携~ 東京都健康長寿医療センター 薬剤科係長 谷古宇 美佳

(6) 認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び次期改訂内容を踏まえた薬学教育カリキュラムに基づいた実務実習の充実

薬学教育 6 年制課程における長期実務実習を適切に実施するため、受入施設の確保及び学生を指導する指導者の資質向上が重要であるとの認識のもと、安定した受入れ体制の維持と質の高い実務実習の充実を図ることを目的に、今年度も本会では、(一社)薬学教育協議会病院・薬局実務実習関東地区調整機構(以下、関東地区調整機構)をはじめとする種々の教育関連機関と連携して各種事業を遂行した。

現行の薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた実務実習の充実した実施に向けて、学習成果基盤型教育(Outcome-Based Education、以下「OBE」)に基づく認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ)と、既に認定を取得した認定実務実習指導薬剤師を対象としたアドバンストワークショップを今年度も引き続き実施する旨等に関する薬学教育協議会からの協力依頼を受け、本会では、コロナ禍においても安定した実務実習体制の維持を図るために、関東地区調整機構の認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」を3回、「関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」を3回、「関東地区調整機構主催認

定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ (OBE 修得のためのアドバンストワークショップ)」1 回を共催した。今年度も本会が事務局を担当したワークショップにおいては、実習時のトラブルを事前に回避することを目的に本会が作成したリーフレット「ハラスメントのない実務実習 (2021年度改訂)」を配布した。

また、関東地区(調整機構単位)各県薬剤師会が事務局を担当した「関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」(全5回)に、本会会員薬局から受講者12名(第3回2名、第4回2名、第6回3名、第7回2名、第8回3名)が参加した。これにより平成17年度(2005年度)より実施された認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ)への本会会員薬局からの総受講者数は今年度までに2,250名となった。

(一社)薬学教育協議会 認定実務実習指導薬剤師認定制度実施要領に基づく、「認定 実務実習指導薬剤師」の認定要件となる「認定実務実習指導薬剤師 養成講習会(講習会 形式の研修講座①②③)」を下記のとおり実施した。また、更新を迎える認定実務実習 指導薬剤師を対象とした「認定実務実習指導薬剤師 更新講習会(講習会形式の研修講 座④)」を養成講習会と同日開催で下記のとおり実施した。

本会では、より質の高い実務実習の実施に向け、指導に係る薬剤師全体のレベルアップを図るとともに地区の指導者を養成することを目的に、令和 4 年度都内受入れ施設485 薬局の指導薬剤師を対象とした、「より質の高い実務実習を目指すためのアドバンストワークショップ」の開催(全5回)を企画した。今年度は隣接する保健医療圏単位でグループ分けした5グループの内、3グループが下記のとおり開催した。これにより各地区薬剤師会、東京都薬剤師会、関東地区調整機構共催の本アドバンストワークショップへの参加者総数は154名に上った。

【第 1 回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ】

開催日時:令和4年6月5日(日) 9:00~17:40

開催場所:帝京平成大学 中野キャンパス 3 階講義室

共 催:(公社)東京都薬剤師会/(一社)薬学教育協議会/

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター:東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

チーフタスクフォース:東京都薬剤師会 常務理事 濵野 明子

タスクフォース:東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員7名、

東京都病院薬剤師会1名、関東地区調整機構1名

受講者:17名(1P3S)

受講者內訳:各地区薬剤師会16名、東京都病院薬剤師会1名

【第9回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

開催日時:令和4年11月26日(土) 8:50~19:00

令和4年11月27日(日) 8:50~18:00

開催場所:帝京平成大学 中野キャンパス 2階講義室

共 催:(公社)東京都薬剤師会/(一社)薬学教育協議会/

(一社) 薬学教育協議会 病院·薬局実務実習 関東地区調整機構

コンサルタント:昭和大学 客員教授 中島 宏昭

ディレクター:東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

関東地区調整機構 委員長 中村 智徳

チーフタスクフォース:東京都薬剤師会 常務理事 濵野 明子

タスクフォース:東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員6名、

関東地区調整機構2名、帝京平成大学1名、

東京都病院薬剤師会2名、茨城県病院薬剤師会1名

受 講 者:27名(1P3S)

受講者内訳:各地区薬剤師会9名、東京都病院薬剤師会6名、関東地区調整機構12

名(各県・病院薬剤師会(茨城3名、栃木4名、埼玉3名)、日本保険

薬局協会 2 名)

【第10回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

開催日時:令和5年1月8日(日) 9:00~19:00

令和5年1月9日(月·祝) 9:00~18:00

開催場所:星薬科大学 百年記念館 1階学生ホール・3階講義室

共 催:(公社)東京都薬剤師会/(一社)薬学教育協議会/

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

コンサルタント:昭和大学 客員教授 中島 宏昭

ディレクター:東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

チーフタスクフォース:東京都薬剤師会 常務理事 濵野 明子

タスクフォース:東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員9名、

関東地区調整機構1名、東京都病院薬剤師会1名

受講者: 27名(1P3S)

受講者内訳:各地区薬剤師会 9 名、東京都病院薬剤師会 6 名、関東地区調整機構 12

名(各県・病院薬剤師会(茨城2名、栃木2名、埼玉2名、神奈川2名、

長野2名)、日本保険薬局協会2名)

【第12回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

開催日時:令和5年1月8日(日)9:00~19:00

令和5年1月9日(月·祝) 9:00~17:55

開催場所:星薬科大学 百年記念館 2階・3階講義室

共 催:(公社)東京都薬剤師会/(一社)薬学教育協議会/

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

コンサルタント:昭和大学 客員教授 中島 宏昭

ディレクター:関東地区調整機構 事務局長 伊東 明彦

チーフタスクフォース:東京都薬剤師会 常務理事 濵野 明子

タスクフォース:東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員7名、

東京都病院薬剤師会3名、茨城県薬剤師会1名

受講者: 26名(1P3S)

受講者内訳:各地区薬剤師会9名、東京都病院薬剤師会6名、関東地区調整機構11 名(各県・病院薬剤師会(茨城2名、栃木2名、埼玉2名、神奈川1名、

新潟1名、長野2名)、日本保険薬局協会1名)

【第7回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師 養成講習会】

開催日時:令和4年11月6日(日) 13:00~17:50

開催場所:星薬科大学 新星館 2階講義室

受講者:85名(内、受講証配布84名)

内容:

1. 開会挨拶 一般社団法人薬学教育協議会

病院·薬局実務実習関東地区調整機構 委員長 中村 智徳

2. 講座①「薬剤師の理念」(ビデオ)

日本薬剤師会 会長 山本 信夫

3. 講座②-1「平成25年度改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」(講演)

講座②-2「薬学実務実習に関するガイドライン」(講演)

一般社団法人薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構 指導薬剤師養成小委員会 浅井 和範

4. 講座③-1「学生の指導(法的問題)」(ビデオ) 弁護士・薬剤師 赤羽根 秀宜 講座③-3「学生の指導(改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した病院実務実 習)」(ビデオ) 日本病院薬剤師会 石井 伊都子

講座③-2「学生の指導(OBE に基づいた薬局実務実習の進め方)」(講演)

一般社団法人薬学教育協議会 病院·薬局実務実習関東地区調整機構 指導薬剤師養成小委員会 田極 淳一

【認定実務実習指導薬剤師 更新講習会】

開催日時:令和4年11月6日(日) 13:00~15:15

開催場所:星薬科大学 新星館 2階講義室

受講者:32名

内容:

1. 開会挨拶 一般社団法人薬学教育協議会

病院·薬局実務実習関東地区調整機構 委員長 中村 智徳

2. 講座①「薬剤師の理念」(ビデオ)

日本薬剤師会 会長 山本 信夫

3. 講座④-1「平成 25 年度改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」(講演) 講座④-2「薬学実務実習に関するガイドライン」(講演)

> 一般社団法人薬学教育協議会 病院·薬局実務実習関東地区調整機構 指導薬剤師養成小委員会 浅井 和範

【より質の高い実務実習を目指すためのアドバンストワークショップ【A】】

開催日時:令和5年1月22日(日) 13:00~18:20

開催場所:帝京平成大学 中野キャンパス 2階講義室

共 催:(公社)東京都薬剤師会/(一社)江東区薬剤師会/

(一社)墨田区薬剤師会/(一社)品川区薬剤師会/

(一社)大田区薬剤師会/(公社)江戸川区薬剤師会/

(一社)薬学教育協議会 病院·薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター:東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

江戸川区薬剤師会 会長 篠原 昭典

チーフタスクフォース:東京都薬剤師会 常務理事 濵野 明子

タスクフォース:東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員7名

各地区薬剤師会9名(江東区2名、墨田区2名、品川区1名、

大田区2名、江戸川区2名)

受 講 者:44名(1P5S)

受講者内訳:江東区11名、墨田区4名、品川区3名、大田区16名、江戸川区5名、

他地区受講者5名(港区1名、荒川区2名、足立区2名)

【より質の高い実務実習を目指すためのアドバンストワークショップ【B】】

開催日時:令和5年3月12日(日) 13:00~18:15

開催場所:帝京平成大学 中野キャンパス 4階講義室

共 催:(公社)東京都薬剤師会/(一社)西多摩薬剤師会/(一社)八王子薬剤師会/

(一社)南多摩薬剤師会/(一社)町田市薬剤師会/(一社)北多摩薬剤師会/

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター: 八王子薬剤師会 会長 橘 隆二

チーフタスクフォース:東京都薬剤師会 常務理事 濵野 明子

タスクフォース:東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員7名

各地区薬剤師会11名(西多摩2名、八王子3名、南多摩2名、

町田市2名、北多摩2名)

受 講 者:57名(1P6S)

受講者内訳:西多摩8名、八王子23名、南多摩15名、町田市4名、北多摩7名

【より質の高い実務実習を目指すためのアドバンストワークショップ【C】】

開催日時:令和5年3月19日(日) 13:00~18:15

開催場所:帝京平成大学 中野キャンパス 2階講義室

共 催:(公社)東京都薬剤師会/(公社)豊島区薬剤師会/(一社)北区薬剤師会/

(一社) 荒川区薬剤師会/(一社) 板橋区薬剤師会/(一社) 練馬区薬剤師会/

(一社)足立区薬剤師会/(一社)葛飾区薬剤師会/

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター:板橋区薬剤師会 会長 保坂 洋二

練馬区薬剤師会 会長 伊澤 慶彦

チーフタスクフォース:東京都薬剤師会 常務理事 濵野 明子

タスクフォース:東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員7名

各地区薬剤師会12名(豊島区2名、北区2名、荒川区2名、

板橋区2名、練馬区2名、足立区1名、葛飾区1名)

受 講 者:53名(1P6S)

受講者内訳: 豊島区4名、北区2名、荒川区6名、板橋区9名、練馬区13名、

足立区7名、葛飾区8名、他地区受講者4名(八王子1名、南多摩1

名、調布市2名)

(7)地区薬剤師研修会への支援と「都薬アワー」の実施

都内 28 地区ごとに、薬剤師を対象に年 2 回の研修会を実施した。研修は都薬アワー、 臨床薬学講習、社会保険講習を中心に実施され、都薬アワーに講師を派遣するとともに 開催経費の助成を行った。また、要望があった地区に社会保険講習の講師を派遣した。

第1回目の都薬アワーでは、本会の令和4年度活動テーマ「更なる地域貢献を目指して ~生涯学修に取り組もう~」を基にその活動重点項目について、都薬アワー講師が説明を行った。「東京都薬剤師会 薬剤師生涯研修認定制度の推進」についての説明の他、「薬局機能強化」として地域連携薬局の申請に関する問題点、薬薬連携推進事業におけ

るトレーシングレポートの活用について、及び東京都のモデル事業である東京都重複多 剤服用管理指導事業について解説した。また、「医療情報連携ネットワーク DX」として オンライン服薬指導及びオンライン資格確認システムについて説明した。

第2回目の都薬アワーでは、「電子処方箋と薬剤師資格証(HPKI)~これからの薬局に求められる薬局DX化~」「東京都薬剤師会が行う生涯学習への取り組み~対人業務の更なる充実に向けて~」について説明した他、「適切な医薬品提供体制構築に関する薬剤師・薬局に関する考え方」「後発医薬品の選択の指針(湿布薬の物性試験)」について解説を行った。その際、統一テキスト及び配布資料を作成して研修を行った。

臨床薬学講習では、主に生活習慣病や在宅医療、緩和医療における多職種連携の中で 薬剤師が求められる役割を学習し、今後の医療連携についての意識の向上を図った。

開催地区及び各研修会の参加人数等は【資料 2】のとおりである。本年度は1回目、2回目共に28地区の開催となった。

また、直扱会員を対象に、都薬アワーの動画を、令和5年2月22日から令和5年2月28日の間にオンデマンドで配信し、45名の直扱会員が受講した。

(8) 学術倫理特別委員会の実施・運用

学術倫理特別委員会は、会員薬局、本会の地区職域薬剤師会、本会各委員会等の実施する医学薬学領域における調査・研究の倫理的妥当性を審査することを目的として、平成26年に設置された。日本薬剤師会学術大会では第52回(令和元年)より、演題登録時に倫理的配慮に関して確認が求められることとなり、現在では多くの学会で確認が行われている。改正後の個人情報の保護に関する法律の規定を踏まえて4月より「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」が一部改正された。これに伴い、本会にホームページに掲載している手順書・申請書様式等の見直しを行った。令和4年度は審査申請が1件あった。

(9) 次世代の薬剤師を養成するための施策への対応

次世代を担う薬剤師の育成や、地域医療において重要な役割を果たす地域薬局の維持を目指し、「次世代薬剤師育成プロジェクト」を立ち上げた。

初年度である令和4年度は、本会会員委員会と共催で、次世代を担う薬学生のニーズや実情を把握し、今後の事業に活用すべく、「学生の声を聴く会」(全3回)を開催し、会員委員会及び地域薬局への薬学生就職対応WGの担当役員及び委員がファシリテーターを担い、学生のディスカッションを行った。本イベントには日本薬剤師会学生会員を中心に、合計で76名(第1回27名、第2回28名、第3回21名)が参加し、地域薬局の取り組みや薬剤師会の活動、薬剤師としてのキャリアビジョン等について、様々な意見交換を行った。一方で、会員薬局に対しては、勤務者の高齢化や、後継者不足とい

った人的資源の課題解消の支援に資するよう準備を開始している。次年度以降において も、引き続き薬学生や薬剤師のスキルやキャリアに応じ、倫理観や深い思考力を有する 薬剤師の育成を図っていく。

2-2 薬局機能の充実対策

(1)「地域連携薬局」、「専門医療機関連携薬局」の認定に向けた事業の実施と支援 令和3年に地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局の制度が施行され、このうち、専 門医療機関連携薬局に関しては、令和2年より日本医療薬学会が「地域薬学ケア専門薬 剤師制度」を発足し、基幹施設(病院)と連携施設(薬局)の連携により、良質な薬物 療法を実践できる研修を履修する枠組みが構築された。

日本医療薬学会から本年度も各都道府県薬剤師会へ研修施設(基幹施設:病院)と研修希望者のマッチングに係る業務への協力依頼があったことから、マッチング調整作業を行った。地域薬学ケア専門薬剤師3名(ジェネラル2名、副領域:がん1名)の基幹施設を決定した。

(2) 健康サポート薬局の取得に向けた事業の実施と支援

(2-2 (7) 「健康サポート薬局に取り組む薬剤師への研修会 A 及び研修会 B の実施と各地区での実施への支援」の項を参照)

(3) 基準薬局の認定・更新

基準薬局制度はその発足以来、薬局並びに薬剤師による医薬分業と地域医療の推進の基盤を担ってきたが、平成27年3月末日をもって日薬による基準薬局制度は発展的に解消された。しかし、地域医療に貢献する医療提供施設として基準となる薬局の姿を社会に示し推進していくことは、これからも大変重要であると考えられるため、今後も本会として基準薬局制度を堅持していくこととした。これまでの日薬の認定基準に加え独自の基準を定めて、基準薬局中央研修会等を開催し、会員薬局に対して認定取得の推進、指導を行ってきた。また、「薬局の求められる機能とあるべき姿」に対応した認定基準により、昨年度527薬局の認定を行ったところである。今年度は、更新中間期にあたっていたが新たな追加申請はなかった。

今年度で認定期間が満了となることから、来年度の新たな認定申請に向け、認定基準項目の見直しを行った。また、令和4年度基準薬局中央研修会を開催した(2-1 (5) ③「令和4年度基準薬局中央研修会の開催」の項を参照)。

(4) 実務実習受入れ態勢の整備

実務実習受入れ態勢の整備と、本会と各エリア間の連携強化を図るため、各地区の実務実習エリア責任者・担当者を対象に、下記のとおり「薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議」(以下、エリア担当者会議)をオンライン形式で開催した。

本会議では、認定実務実習指導薬剤師の認定申請業務が今年度から薬学教育協議会へ移行されたことを受け、申請手続き等に関する説明を行うとともに、エリアが果たす役割や注意事項について伝達した。加えて、「薬学実務実習に関するガイドライン」に則した学習環境を整え、より効果的な参加・体験型臨床実習の実施を目指して、令和4年度都内受入れ施設約485薬局の指導薬剤師を対象とした、「より質の高い実務実習を目指すためのアドバンストワークショップ」の開催に向けて協議を行った。(2-1(6)「認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた実務実習の充実」の項を参照)。

令和 5 年度の薬局実務実習受入れに当たり、各エリアや受入薬局で行う準備や注意 事項の伝達を目的とした「『令和 5 年度 実務実習受入薬局』伝達講習会」を下記のとお りオンライン形式で開催した。今年度から参加対象者を令和 5 年度実務実習受入決定 薬局の指導に係る全薬剤師に広げ、関東地区調整機構より令和 4 年度実務実習の状況 報告と令和 5 年度方針の伝達があり、薬学教育モデル・コア・カリキュラム令和 4 年度 改訂版の概要やカリキュラム改訂に向けたシームレスな実務実習の実施について説明 した。加えて、実習生の薬学的知見に基づいた実践的な臨床能力を培うため、薬局・病 院における薬物療法の実践事例を挙げて解説し、適切な概略評価を実施するための参考 に供した。本講習会へは、令和 5 年度薬局実務実習受入薬局の指導に係る全薬剤師をは じめ、各地区の実務実習エリア責任者やエリア担当者、並びに各大学との情報共有を図 る目的で関東地区 24 薬科大学・大学薬学部の薬局実務実習担当教員を招請し、多くの 関係者に伝達した。

令和元年度から設置した「都内大学との実習施設情報の共有と対応ワーキンググループ」では、今年度も本会と都内 10 薬科大学・大学薬学部間で実務実習終了後の実習情報を交換し、実習中のトラブルを早期に防止するための対応策について協議・検討を行った。

【薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議】

開催日時:令和4年11月5日(土) 18:00~20:25

開催方法:オンラインによるライブ配信

出席者:地区薬剤師会役員、各エリア実務実習受入責任者・担当者60名

内 容:

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 認定実務実習指導薬剤師に関わる認定申請と6年制卒の特例及び、薬局実務実習受入に関するエリア担当者へのお願い

東京都薬剤師会 理事 田極 淳一

3. 薬学実務実習ガイドラインを見直そう! 薬学教育モデル・コアカリキュラムの目指す実務実習-カリキュラム改訂で変わるもの、変わらないもの-

一般社団法人 薬学教育協議会

病院·薬局実務実習 関東地区調整機構 委員 小佐野 博史

4. 令和4年度 より質の高い実務実習を目指すためのアドバンストワークショップ の目的とテーマについて

東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員長 輿水 淳

- 5. 令和4年度 より質の高い実務実習を目指すためのアドバンストワークショップ 開催方法の提案 東京都薬剤師会 常務理事 濵野 明子
- 6. ブレイクアウトルームを利用した各グループでの顔合わせ
- 7. 質疑応答

8. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

【「令和5年度 実務実習受入薬局」伝達講習会】

開催日時:令和5年2月5日(日) 9:30~12:50

開催方法:オンラインによるライブ配信

受講者:385名(東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員を含む)

受講者内訳:各地区の令和5年度実務実習受入施設の指導薬剤師等358名、

関東地区 24 大学のうち 20 大学*の薬局実務実習担当教員 27 名

** 参加大学:国際医療福祉大学、城西大学、日本薬科大学、城西国際大学、 千葉科学大学、千葉大学、東京理科大学、日本大学、北里大学、

慶應義塾大学、昭和大学、昭和薬科大学、帝京大学、

帝京平成大学、東京大学、東京薬科大学、星薬科大学、

武蔵野大学、明治薬科大学、横浜薬科大学、湘南医療大学

内容:

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 令和4年度実務実習の状況報告および令和5年度の方針について

一般社団法人薬学教育協議会 病院•薬局実務実習

関東地区調整機構 委員長 中村 智徳

- 3. 実務実習受入れに関する注意事項とより質の高い実務実習を目指すための ADWS について 東京都薬剤師会 常務理事 濵野 明子
- 4. 未来の社会や地域を見据えた医療人の養成-薬学教育モデル・コアカリキュラム

は誰のためにあるのか?-

薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に関する専門研究委員会 委員 小佐野 博史

5. 概略評価の捉え方と形成的評価の意義

東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 山﨑 紀子

- 6. 薬局・病院における薬物療法の実践事例を用いた形成的評価の実践例
- 6-1. 薬局実習における形成的評価の実践例 適切なフィードバックのタイミングとポイント 東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 吉田 正樹
- 6-2. 総合東京病院での With コロナにおけるハイブリッド実習と症例検討試験の 活用 医療法人財団健貢会 総合東京病院 薬剤科 田籠 美保子
- 7. 質疑応答
- 8. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

(5)薬局業務研修会の実施

今年度は、慢性心不全に係る内容を企画し、薬局業務研修会を下記のとおり開催した。

【薬局業務研修会】

開催日時:令和5年1月29日(日) 12:30~15:50

開催場所:日本教育会館 一ッ橋ホール

受講者数:513名(内、会員外 15名)

内容:

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 心不全とはなんだろう? ~その概念から最近の薬物治療まで~

医療法人社団潮友会 うしお病院 循環器内科部長 加藤 真帆人

3. 慢性心不全治療における病院薬剤師の関わり

杏林大学医学部付属病院 薬剤部 係長 中山 英明

4. 心不全患者における薬局薬剤師の役割

~薬局での心不全管理の実際と薬・薬連携~

フジ薬局 大学病院前店 薬剤師・心不全療養指導士 磯崎 弘恵

- (6) 薬機法に対応した医薬品等の適正使用の推進及び供給体制整備等に関する周知 徹底に資する資料提供
 - (8. (2) 「『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施」の項を参照)
- (7) 健康サポート薬局に取り組む薬剤師への研修会 A 及び研修会 B の実施と各地区での実施への支援

平成28年4月に施行された健康サポート薬局については、薬局が健康サポート薬局である旨の表示を行うにあたり、厚生労働大臣が定める基準第三号で規定される常駐する薬剤師の資質に係る「要指導医薬品及び健康食品等の安全かつ適正な使用に関する助言、健康の保持増進に関する相談並びに適切な専門職種または関係機関への紹介等に関する研修」を全て受講した後に発行される研修修了証の添付提出が必須である。日本薬剤師会と日本薬剤師研修センターが共同で、厚生労働省が指定する第三者機関(指定確認機関)である(公社)日本薬学会から健康サポート薬局に係る研修の実施機関として確認を受けたことから、当会は、日本薬剤師会との共催で技能習得型《研修会A》並びに《研修会B》の開催協力を昨年度に引き続き行い、日本薬剤師会より発出された「健康サポート薬局に係る研修」通知文である「その65~72」の内容を把握し、地区薬剤師会に伝達した。

また、当会で《研修会 A》を 2 回、並びに《研修会 B》を 1 回開催したほか、地域単位での《研修会 A》を 1 回、《研修会 B》を 1 回、開催の共催をした。《研修会 A》は合計 223 名、《研修会 B》は合計 135 名に対して規定に則り受講証明書を発行した。

なお、申し込み方法は、当会ホームページを活用した受講手続きを企画し、電子メールを用いて対応することにより正当かつ的確に事務処理を行った。

【第1回 令和4年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修 ≪研修会A≫】

開催日時: 令和4年6月19日(日)12:00~16:30

開催場所: AP東京八重洲 K+Lルーム

内 容: 司会:東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

自己評価表 受講前チェック

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 基本理念

(1)「健康サポート薬局の基本理念」(DVD) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫 日本薬剤師会 副会長 田尻 泰典

(2)健康サポート薬局の理念~地域包括ケアに対応した薬局・薬剤師~

東京都薬剤師会 常務理事 関根 克敏

(3) グループ討議:薬局が地域の資源とどのように繋がるか

東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

- 3. 東京都の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と健康サポート薬局の連携
 - (1)東京都の健康課題と健康増進施策~健康サポート薬局への期待~

東京都福祉保健局 保健政策調整担当部長(保健政策部健康推進課長事務取扱) 播磨 あかね

- (2) 他職種等の取り組みについて~健康サポート薬局との連携を探る~
 - 1) 地域住民への栄養サポートにおける健康サポート薬局との連携について 墨田区福祉保健部 保健衛生担当 保健計画課 主査 高橋 久美子
 - 2) ケアマネから見た地域包括ケアにおける他職種との連携

~健康サポート薬局に期待すること~

世田谷区社会福祉事業団 太子堂介護保険サービス 所長/主任介護支援専門員 梶原 保紀

(3) 東京都の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と役割の現状

東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

4. 演習 進行: 東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

5. まとめ 東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

6. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 髙橋 正夫

(応募・出席状況)

区分	人数
一般	17
会員	94
応募者計	111

出席・レポート提出	一般	17	100	
(受講証明書発行数)	会 員	92	109	
<i>₩</i>	一般	0	0	
欠 席	会 員	2	2	
応募者計			111	

【第2回 令和4年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修 ≪研修会A≫】

開催日時: 令和4年11月3日(木・祝)12:00~16:30

開催場所:連合会館 大会議室

内 容: 司会:東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

自己評価表 受講前チェック

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 基本理念

(1)「健康サポート薬局の基本理念」(DVD) 日本薬剤師会 会 長 山本 信夫

日本薬剤師会 副会長 田尻 泰典

(2)健康サポート薬局の理念~地域包括ケアに対応した薬局・薬剤師~

東京都薬剤師会 常務理事 関根 克敏

(3) グループ討議:薬局が地域の資源とどのように繋がるか

東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

3. 東京都の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と健康サポート薬局の連携

(1)東京都の健康課題と健康増進施策~健康サポート薬局への期待~

東京都福祉保健局 保健政策調整担当部長(保健政策部健康推進課長事務取扱) 播磨 あかね(6/19 収録映像)

- (2) 他職種等の取り組みについて~健康サポート薬局との連携を探る~
 - 1)地域住民への栄養サポートにおける健康サポート薬局との連携について 墨田区福祉保健部 保健衛生担当 保健計画課 主査 高橋 久美子(6/19 収録映像)
 - 2) ケアマネから見た地域包括ケアにおける他職種との連携

~健康サポート薬局に期待すること~

世田谷区社会福祉事業団 太子堂介護保険サービス 所長/主任介護支援専門員 梶原 保紀(6/19 収録映像)

(3) 東京都の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と役割の現状

東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

4. 演習 進行:東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

6. 閉会挨拶

5. まとめ

東京都薬剤師会 副会長 髙橋 正夫

(応募・出席状況)

区分	人数
一般	30
会員	54
応募者計	84

出席・レポート提出	一般	29	0.0	
(受講証明書発行数)	会 員	53	82	
6	一般	1	0	
欠 席	会 員	1	2	
応募者計			84	

【令和4年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修 《研修会 B》】

開催日時:令和5年3月4日(十)15:00~19:40

開催場所:連合会館 大会議室

内容:

司会:東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

自己評価表 事前チェック

1. 挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 関根 克敏

2. 薬局・薬剤師を巡る現状と健康サポート薬局

東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

- 3. 一般用医薬品等を取り巻く現状 (DVD 講義) 日本薬剤師会 常務理事 岩月 進
- 4. 薬局利用者の状態把握と販売時と販売後の対応(演習) (DVD 講義)

講師:日本薬剤師会 一般用医薬品等委員会 委員長 亀山 貴康

昭和大学薬学部 社会健康薬学講座 医薬品評価薬学部門 准教授 亀井 大輔

演習進行:東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

5. まとめ 東京都薬剤師会 副会長 髙橋 正夫

6. レポート作成

(応募・出席状況)

区分	人数
一般	30
会員	44
応募者計	74

出席・レポート提出	一般	30	70	
(受講証明書発行数)	会 員	43 (42*)	73	
<i>₩</i> ##	一般	0	1	
欠 席	会 員	1	1	
応募者	74			

*1 名遅刻により受講証明書の発行なし

なお、地区における開催地域及び研修会の参加人数等は【資料 3】のとおりである。

(8) 登録販売者研修会の実施

平成24年度より一般用医薬品の販売に従事するすべての登録販売者に対し、毎年12時間以上の外部研修を受講することが義務化された。今年度より外部研修実施機関の認可先が厚生労働省に変更となったことから、新たに厚生労働省から外部研修実施機関の認可を受け、会員の薬局並びに店舗販売業に従事する登録販売者を対象に、ガイドラインに沿ったカリキュラムを基に、令和4年度登録販売者研修会を下記のとおり開催した。

令和3年度に、コロナ禍での開催を理由に全てWebを用いた開催方法が認められたことから、今年度も同様に12時間の研修をすべてオンデマンド配信により開催を実施した。12時間を3回に分け、1回につき4研修分を配信し、修了証発行者数は106名であった(申込者106名)。

【令和4年度 登録販売者研修会】

<1回目>

開催日時: 令和5年1月12日(木)10:00~令和5年1月25日(水)23:59

開催方法:オンデマンド配信

主 催:東京都薬剤師会

内容:

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 漢方講座 五行説について 東京都薬剤師会 理事 田極 淳一

3. 最近の薬務行政・医薬品販売制度について 東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

4. OTC 医薬品で発症する可能性がある副作用と対策

東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

5. 鼻炎、アレルギー関連薬

東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫

<2回目>

開催日時: 令和5年1月26日(木)10:00~令和5年2月8日(水)23:59

開催方法:オンデマンド配信

主 催:東京都薬剤師会

内容:

1. 登録販売者に求められるコミュニケーション 東京都薬剤師会 理事 小林 百代

2. 情報の取得と活用について 東京都薬剤師会 理事 石川 さと子

3. セルフメディケーションとセルフケア 東京都薬剤師会 理事 町田 奈緒子

4. 添付文書について 東京都薬剤師会 理事 三溝 学

医薬品副作用被害救済制度について

<3回目>

開催日時: 令和5年2月9日(木)10:00~令和5年2月22日(水)23:59

開催方法:オンデマンド配信

主 催:東京都薬剤師会

内容:

1. 薬局で扱う「健康食品」について 東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

2. アンチ・ドーピング、薬害の歴史 東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫

3. 店舗の管理及び区域の管理に関する事項 東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

4. 漢方薬における排尿障害・瀉下薬・痔疾用薬 東京都薬剤師会 理事 田極 淳一

(9) 高度管理医療機器等営業所管理者等継続研修の実施

平成 18 年度より高度管理医療機器等営業所管理者等に年に一度継続研修が義務付けられている。令和 4 年度も実施機関の認可を得ている日本薬剤師会と共催して継続研修会を開催し、受講者に修了証を発行した。

なお、厚生労働省より昨今の社会情勢に鑑み、今後、インターネット等を利用した方法での講習等の実施が認められたことを受け、日本薬剤師会が研修実施場所として会場の他、受講者自宅や職場等を含めた許可内容を変更し、Web 配信も対象となったことから、今年度もWeb を用いた配信による開催とした。

【高度管理医療機器等営業所管理者等に係る継続研修会】

開催日時:令和4年12月8日(木)~12月14日(水)

開催方法:Webを用いたオンデマンドによる配信

内 容:

<日本薬剤師会作成のコンテンツを利用>

1. 薬機法その他薬事に関する法令

公益財団法人 医療機器センター 常務理事 新見 裕一

2. 医療機器の品質管理

一般社団法人 日本医療機器産業連合会 販売·保守委員会 委員 浦冨 恵輔

3. 医療機器の不具合報告及び回収報告

一般社団法人 日本医療機器産業連合会 PMS 委員会 委員 三田 哲也

4. 医療機器の情報提供

公益財団法人 医療機器センター 医療機器産業研究所 主任研究員 本田 大輔 当日資料: 今年4度継続研修テキスト(医療機器センター)

申 込 数:2,059名(基準薬局会員358名・会員1,457名・会員外244名)

修了者数:2,045名

東京都 1,629 名、神奈川県 145 名、埼玉県 120 名、千葉県 114 名、茨城県 9 名、愛知県 7 名、栃木県 5 名、群馬県 3 名、宮城県 3 名、北海道 2 名、新潟県 2 名、静岡県 2 名、山形県 1 名、長野県 1 名、兵庫県 1 名、熊本県 1 名

(10) ICTの適正な活用に向けた体制整備

(3-1.(3)「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成・検討の項を参照)

(11) 医薬品流通のための連絡協議会の開催

例年、東京都医薬品卸業協会の役員と当会役員で協議を行っているが、令和 4 年度 は開催を見送った。

(12)健康サポート機能、適切な医薬品提供体制構築に関する薬局製剤の普及

セルフメディケーション推進の一環として、薬剤師にしか提供できない薬局製剤の 普及に資するため、下記日程にて薬局製剤研修会を開催した。各受講者によって調整 された解熱鎮痛剤 2 号 A1 包について、衛生試験所にて定量試験を行い、その結果を 各受講者にフィードバックした。

なお、第2~4回の受講者に対しては講義部分をe-ラーニング形式で提供し、確認 テストを利用して理解度の確認を行った。

【令和4年度 薬局製剤研修会 第1回】

開催日時:令和4年6月5日(日)A班9:00~15:00/B班9:30~15:30

開催場所:帝京平成大学中野キャンパス(202・203・204・205 講義室、物理実習室)

受講者: A 班 43 名/B 班 46 名

内容:

司会:東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫/和田 早也乃

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

2. 講義

①薬局製剤で起こす薬局革命 東京都

東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫

②製剤学の観点から見た薬局製剤

帝京平成大学薬学部 物理薬剤学ユニット教授 山本 佳久

- ③感冒症状における薬局製剤 コサカ薬局 多摩センター駅前店 小坂 智弘
- ④薬局製剤と薬機法 これだけは知っておきたい薬機法上の留意点

東京都健康安全研究センター広域監視部薬事監視指導課

連携薬局担当(統括課長代理) 水野 正彦

⑤一緒に作ろう医薬品製造販売業の申請書

東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

3. 実習

- 進行:東京都薬剤師会 理事 田極 淳一
- ·解熱鎮痛剤2号A
- ・U・E・Hクリーム
- ・塩化アルミニウム・ベンザルコニウム液
- パッケージ作成
- 桂枝湯

4. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 宮川 昌和

【令和4年度 薬局製剤研修会 第2回】

開催日時:令和4年10月15日(土)17:00~19:45

開催場所:東京都薬剤師会館 3F/4F 会議室

受講者:12名

内容:

司会:東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫

東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫

1. 開会挨拶

2. オリエンテーション

3. 作ってみよう薬局製剤

解熱鎮痛剤 2 号 A: 犬伏理事

・U·E·Hクリーム:関根常務理事

・塩化アルミニウム・ベンザルコニウム液:和田理事

• 桂枝湯:田極理事

・パッケージ説明:田極理事

4. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 宮川 昌和

【令和4年度 薬局製剤研修会 第3回】

開催日時: 令和4年11月12日(土)17:00~19:45

開催場所:東京都薬剤師会館 3F/4F会議室

受講者:14名

内容:

1. 開会挨拶

司会:東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫

東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

2. オリエンテーション 東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫

3. 作ってみよう薬局製剤

·解熱鎮痛剤 2 号 A: 犬伏理事

・U·E·Hクリーム:関根常務理事

・塩化アルミニウム・ベンザルコニウム液:町田理事

• 桂枝湯:田極理事

・パッケージ説明:田極理事

4. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 宮川 昌和

【令和4年度 薬局製剤研修会 第4回】

開催日時:令和4年12月17日(土)17:00~19:45

開催場所:東京都薬剤師会館 3F/4F会議室

受講者:18名

内 容:

司会:東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

2. オリエンテーション 東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫

3. 作ってみよう薬局製剤

·解熱鎮痛剤 2 号 A: 犬伏理事

・U·E·Hクリーム:関根常務理事

・塩化アルミニウム・ベンザルコニウム液:町田理事

• 桂枝湯:田極理事

・パッケージ説明:田極理事

4. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 宮川 昌和

(13)休日・夜間等における医薬品供給体制の整備・拡充

今年度新たに開設された休日薬局はなく、支援も行わなかった。なお、地区では地域 住民への休日対応薬局の情報提供は例年とおり行っている。

(14) オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会の実施

今年度も、診療に伴う緊急避妊薬の調剤に対応できる多くの薬剤師を養成するため、 集合研修にてオンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会を下記のとおり 開催した。

【オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会】

開催日時:令和5年3月26日(日) 12:00~15:45

開催場所:日経ホール

申込者数:102名(内、会員外 38名)

修了者数:92名(内、会員外 37名)

内 容: (一部、日本薬剤師会作成動画 DVD を使用)

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰浩

2. オンライン診療の適切な実施に関する指針と緊急避妊薬の調剤について(DVD 視聴)

日本薬剤師会 常務理事 豊見 敦

- 3. オンライン診療に伴う緊急避妊薬処方上の留意点
 - (1)月経、月経異常、ホルモンの調節機序
 - (2) OC 全般と避妊法
 - (3) 緊急避妊全般 キッコーマン総合病院 産婦人科センター長

公益社団法人日本産婦人科医会 常務理事 宮﨑 亮一郎

- 4. 質疑応答
- 5. 「オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤について」
 - (1)薬局での調剤の手順について (DVD 視聴)

日本薬剤師会 常務理事 亀井 美和子

(2) 患者対応等について (DVD 視聴)

一般社団法人日本女性薬剤師会 副会長

薬剤師生涯学習センター「性の健康」検討委員会 委員長 小宮山 貴子

6. 変更点等について

東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

7. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 髙橋 正夫

2-3 地域医療対策

(1) 東京都の保健医療計画等各種計画への積極的な対応

各協議会等に委員として参画し意見するとともに、薬局・薬剤師の役割が計画に反映されるよう働きかけた。

(2) 東京都保健医療計画に対応する二次医療圏連絡協議会への参加と協力

地域保健医療協議会に委員が参加し、地域医療の課題への対応を協議するととも に、チーム医療の中で、薬局・薬剤師が役割を果たせるよう連携体制の構築に努め た。

(3) 切れ目のない薬物療法の提供に向けた薬・薬連携の推進

今年度は、昨年度に引き続き東京都委託事業「薬薬連携推進事業」において、トレーシングレポートによる保険薬局から医療機関へ積極的に服薬情報等を提供できる環境を整備した。

上記事業の中で、抗がん薬治療用のトレーシングレポートの記載は、薬局薬剤師にとってハードルが高いとされていることから、がん研究会有明病院薬剤部の先生方の協力のもと、テキスト「がん薬物療法の患者安全管理〜知っておくべき医師と薬剤師の共通言語・共通認識〜」を作成して、東京都薬剤師会ホームページに掲載した。また、「大腸がん」をテーマに抗がん薬治療における効果、有害事象及び評価のポイントを習得できるようなスモールグループディスカッション(SGD)形式の研修会を開催した。

【がん薬物療法の服薬支援のための研修会】

開催日時:令和4年11月26日(土) 15:00~19:20

開催方法: Zoom を使用した Web 会議

参加者:21名

内 容:~「大腸がん」をテーマにトレーシングレポートの書き方を学ぼう~

司会:東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

・開会の挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 篠原 高雄

<講演>

1. 「大腸がん治療を仮想症例から見てみよう(趣意説明)」

公益財団法人がん研究会有明病院 副薬剤部長 清水 久範

2. 「大腸がん患者に対して薬局薬剤師ができることは何だろう」

スエヤス調剤薬局 文京店 島田 淳史

<スモールグループディスカッション(SGD)>

1. 「トレーシングレポート」(抗がん薬)を書くうえで欲しい情報とは?」

・閉会の挨拶 東京都薬剤師会 理事 松本 雄介

(4) 地域包括ケアシステムへの参画に向けた在宅医療・介護提供体制の整備

昨年度に引き続き、令和4年度も「都内の薬局又は薬剤師に対し、在宅医療に関する知識・技能を有する人材の確保、地域連携促進に向けた体制構築、関係者との協力関係構築、地域住民に対するかかりつけ薬剤師・薬局機能の普及啓発を実施し、薬局・薬剤師の地域包括ケアシステムへの参加促進を図る」ことを目的とした「地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業」を東京都より受託した。

当該委託事業実施要領や地域支援事業についての情報などを地区薬剤師会経由で会員に周知するとともに、「薬局・薬剤師の機能強化事業 地区担当者会議」を開催して昨年度各地区薬剤師会が実施した事業の報告と本年度事業の説明を行い、各地区薬剤師会に事業の実施を依頼した。

また、新たな連携薬局活用のための基盤整備や多職種連携を強化するとともに、在宅患者への訪問服薬指導に必要な知識について解説する「在宅訪問ステップアップ研修会」を実施した。今後在宅医療に参画する意思はあるものの、いまだ取り組めていない薬剤師に向けた基本的知識や書式類、在宅で扱う医療材料の取り扱い等をわかりやすく解説する基礎研修と、認知症や終末期ケア及び緩和ケアなど外来から在宅に移行した症例の提示とその対応についての解説及びディスカッションや栄養管理など、より深い内容を盛り込んだ実践研修を計3日程のZoom形式で開催した。第1回は「在宅医療初期講習」(372名)、第2回は「ディスカッション~在宅訪問の介入について~」(346名)、第3回は「在宅における栄養管理」(339名)をテーマに開催した。前年度の研修会(第1回235名、第2回249名、第3回239名)と比較すると各開催で100名近くの受講者数増加となった。

無菌調製技能習得研修では、これまでの「薬局・薬剤師在宅療養支援促進事業」と同様に、都内薬系2大学と協力して研修を実施した。今年度も、昨年度同様、従来からの無菌調製に関する基本的な知識・手技を行う基礎研修(1大学)に加え、今後の地域包括ケアシステムの実現に向けて、在宅における緩和ケア医療に関する基本的な知識や疼痛管理における輸液ポンプ操作等の手技を行うステップアップ研修(1大学)を実施した。

「薬局・薬剤師の機能強化事業 地区担当者会議」で事業概要の説明を行った後に各地区で計画に則り研修会を開催した。多職種連携による訪問服薬指導の推進における地域薬局連携のための研修会は32地区で実施した。地域施設実地研修では、無菌調剤室設置施設での実地調製研修を18地区で実施した。地域包括ケアシステムの早期実現に向けて地域ごとの問題、構築方法等について検討する多職種連携連絡会は32地区で実施した。地域連携構築に向けた多職種間における連携促進・啓発では、住民への啓発並びに連携促進のための講習会を26地区薬剤師会で実施した。多職種との連携促進のうち、関係者連絡会では3月の会議で年度活動結果を報告した。なお新型コロナウイルス感染症の影響で実施を断念した事業は以下のとおりである(地域薬局連携のための研修会

1 地区)。

地域薬局間連携研修と地域連携構築支援事業に関する開催地区及び各研修会の参加 人数等は【資料 4】のとおりである。コロナウイルス感染症対策として、Zoom 配信を活 用したオンラインでの研修会の開催報告が多く、計画、実施ともに参加地区数が昨年度 より増加した。なお、開催を中止した事業については斜線を付している。

また、昨年度から、新たな取り組みとして、服薬情報等提供書(トレーシングレポート)による保険薬局から医療機関へ積極的に服薬情報等を提供できる環境を整備して、 患者の服薬状況等の一元的・継続的な把握を進め、質の高い医療の提供を目指すことを 目的とした「薬薬連携推進事業」を開始した。本事業は、令和3年度から5年度にかけて 全12医療圏(二次医療圏)で行い、今年度は、下記の4医療圏(モデル地区)を選定し、 薬局及び医療機関の担当者に対して、9月に説明会を開催した。また、3月の薬薬連携 推進関係者連絡会では、今年度の取り組みの結果について報告した。

	医療圏	対象地区
1	区南部	品川、大田
2	区西南部	目黒、世田谷、渋谷
3	南多摩	八王子、町田、日野、多摩、稲城
4	西多摩	青梅、福生、あきる野、羽村、瑞穂、日の出、奥多摩、檜原

【地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業 地区担当者会議】

開催日時:令和4年7月9日(土)18:00~20:00

開催場所:日本教育会館 7階 中会議室

参加人数:48 地区74名

研修内容:

·開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

東京都福祉保健局健康安全部 薬務課長 中島 真弓

・ 令和 4 年度 東京都委託事業について

東京都福祉保健局健康安全部 薬務課 白川 聡子

- ・令和3年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業報告
- ・令和4年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業について 東京都薬剤師会 理事 伊藤 威
- ・地域ケア会議推進のための板橋区の取り組み

板橋区薬剤師会 副会長 比留間 康二郎

・練馬区薬剤師会の取組について(模擬的な地域ケア会議の検討等) 練馬区薬剤師会 地域保健支援相談委員会 主担当理事 栗原 雄治

【討論】シンポジウム形式

座長:東京都薬剤師会 在宅医療支援事業 WG 委員長 添石 遼平

副委員長 前田 桂吾

· 閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男

【令和4年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業 関係者連絡会】

開催日時:令和5年3月31日(金) 17:00~18:10

開催場所:東京都薬剤師会 3階会議室

出席者:10名

(委員) 東京都医師会 理事 土谷 明男

東京都看護協会 常務理事 佐川 きよみ 東京都訪問看護ステーション協会 会長 椎名 美恵子 東京都介護支援専門員研究協議会 理事 西澤 文恵 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

東京都薬剤師会 理事 町田 奈緒子

(オブザーバー) 東京都福祉保健局健康安全部薬務課 事業連携担当課長代理

森田 貴教

東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男東京都薬剤師会 事務局長 河野 安昭

研修内容:

- 1. 挨拶
- 2. 東京都委託事業について
- 3. 委員・出席者自己紹介
- 4. 東京都薬剤師会における令和 4 年度 地域包括ケアシステム薬局・薬剤師の機能 強化事業の取組について
- 5. 令和4年度 地域包括ケアシステムにおける薬局·薬剤師の機能強化事業 ~取組事例~~日野市における取組事例~
- 6. 質疑応答

【在宅訪問ステップアップ研修会】

令和4年度 第1回ステップアップ研修会

開催日時:令和4年11月10日(木)19:00~21:00

開催方法:東京都薬剤師会 4階会議室・Zoom ウェビナー

参加者: 450名中372名(受講率82%)

研修内容:

•開会挨拶

東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

·東京都福祉保健局挨拶

東京都福祉保健局健康安全部薬務課 事業連携担当課長代理 森田 貴教

•講義

「在宅医療初期講習」

東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

「はじめて在宅訪問する前に知っておきたいこと」

東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

「在宅医療で連携する多職種辞典 2022 年版」

東京都薬剤師会 在宅医療支援事業ワーキンググループ 委員 會田 一惠

•閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男

令和4年度 第2回ステップアップ研修会

開催日時:令和4年11月17日(木)19:00~21:00

開催方法:東京都薬剤師会 3 階会議室・Zoom ウェビナー

参 加 者: 450 名中 346 名(受講率 76%)

研修内容:

• 開会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男

• 講 義

「ディスカッション~在宅訪問の介入について~」

東京都薬剤師会 理事 町田 奈緒子 在宅医療支援事業 WG 副委員長 前田 桂吾 在宅医療支援事業 WG 委員 會田 一惠

【座長】 在宅医療支援事業 WG 委員 新井 悟

• 閉会挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

令和4年度 第3回ステップアップ研修会

開催日時: 令和4年12月1日(木) 19:00~21:00

開催方法:東京都薬剤師会 4 階会議室・Zoom ウェビナー

参加者: 450名中339名(受講率75%)

研修内容:

• 開会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男

• 講 義

「在宅栄養管理の基礎知識~病院薬剤師の視点から~」

在宅医療支援事業 WG 委員 越田 晃

「薬剤師が知っておきたい栄養管理のポイント~管理栄養士からのアドバイス~」 東京都立府中療育センター 栄養科長 本荘谷 利子

「薬局での栄養サポートの実際」

宅医療支援事業 WG 委員 勝野 純子

• 閉会挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充

【薬薬連携推進事業 担当者説明会】

開催日時:令和4年9月2日(金) 18:30~19:45

開催方法: Zoom を使用した Web 会議

参加者:63名(薬局担当者21名、病院担当者42名)

内容:

司会:東京都薬剤師会 理事 小林 百代

1. 開会の挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 薬薬連携推進事業の目的について

東京都福祉保健局健康安全部薬務課監視計画担当 白川 聡子

3. 薬薬連携推進事業の運用の流れについて 東京都薬剤師会 常務理事 篠原 高雄

4. 令和3年度トレーシングレポート運用報告(医療機関より)

武蔵野赤十字病院 薬剤部 細谷 龍一郎

5. 調剤薬局におけるトレーシングレポートの運用について

スエヤス調剤薬局 文京店 島田 淳史

6. 閉会の挨拶

東京都病院薬剤師会 会長 林 昌洋

【薬薬連携推進関係者連絡会】

開催日時:令和5年3月27日(月) 18:00~19:30

開催方法:東京都薬剤師会3階会議室及びZoomを使用したWeb会議

出席者:(委員) 東京都医師会理事 土谷明男

東京都病院薬剤師会 常任理事 中小病院部部長 坂巻 誠東京都病院薬剤師会 薬務薬制部 副部長 小林 秀樹

東京都病院薬剤師会 専門薬剤師養成部がん薬物療法専門薬剤師

養成小委員会 副委員長 清水 久範

東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

東京都薬剤師会 常務理事 篠原 高雄

東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会 委員長 後藤 一美

東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会 副委員長 島田 淳史

(オブザーバー) 東京都福祉保健局健康安全部薬務課事業連携担当 森田 貴教

東邦大学医療センター大橋病院薬剤部 部長補佐 小林 加寿子

内容:

- 1. 開会挨拶
- 2. 委員・出席者自己紹介
- 3. 東京都委託事業「薬薬連携推進事業」について
- 4. 東京都委託事業「令和4年度薬薬連携推進事業」アンケート調査結果について
- 5. 東京都委託事業「令和5年度薬薬連携推進事業」について
- 6. 閉会挨拶

【無菌調製技能習得研修会】

1. 星薬科大学

開催日時:令和4年9月4日(日) 10:00~16:25

開催場所:星薬科大学 第二新館 4階演習室、7階臨床実習室

参加者:30名(これまでに「無菌調製技能習得研修会」を受講し修了証を有する者)

修了証授与数:30名

<講義> 司会:星薬科大学 教授 浅井 和範

東京都薬剤師会 理事 田極 淳一

1. 開講にあたって

東京都福祉保健局健康安全部 薬事監視担当課長 山本 毅星薬科大学 学長 牛島 俊和

東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男

2. 疼痛管理における PCA ポンプの役割

東京都薬剤師会 在宅医療支援事業ワーキンググループ 添石 遼平

3. 緩和医療の基礎知識

星薬科大学 実務教育研究部門 講師 鳥越 一宏

<実習>

1. 無菌調製の基本操作と持続注入ポンプの薬液調製

東京都薬剤師会 在宅医療支援事業ワーキンググループ 前田 桂吾

2. CADD-Solis ポンプの機能と操作方法

スミスメディカル・ジャパン株式会社 事業開発部 在宅医療推進課 鈴木 偉宏

3. 閉会式(統括・修了証の授与)

2. 帝京平成大学

2-1. 講義

開催日時:令和5年2月26日(日)10:00~15:20

開催形式:オンライン配信

参加者:89名

2-2. 実習(1)

開催日時: 令和5年3月5日(日)(A)9:30~14:30(B)12:45~16:30

場 所:帝京平成大学中野キャンパス3階

参加者:計49名 ((A)25名 (B)24名)

2-2. 実習(2)

開催日時: 令和5年3月19日(日)(A)9:30~14:40(B)12:45~16:30

場 所:帝京平成大学中野キャンパス3階

参加者:計49名 ((A)23名 (B)26名)

内容:

<2月26日(日)講義>

1. 開講にあたって

司会:東京都薬剤師会 理事 伊藤 威東京都福祉保健局 健康安全部 薬務課長 中島 真弓帝京平成大学 薬学部長 亀井 美和子東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男

2. 在宅医療における無菌調剤の現状

東京都リハビリテーション病院 診療部 薬剤検査科長 越田 晃

3. 輸液の基本知識 株式会社大塚製薬工場 営業本部 学術部 園田 景三

4. 中心静脈栄養法 (TPN) の基本 帝京平成大学 薬学部 准教授 島﨑 学

5. 注射剤の混合調製を始めるに際して 帝京平成大学 薬学部 教授 清野 敏一 <3月5日(日)、3月19日(日)実習>

1. 318 調剤実習室

手洗い、手袋の脱着、アンプル、バイアル、シリンジの取扱い、 凍結乾燥品の取扱い、薬液の採取など

- 2. 313 無菌調剤実習室(手洗い・注射実習室:クリーンベンチ使用) 混合調製の実践(準備、手洗い、手袋装着、混合調製、鑑査、清掃)
- 3. 303/304 教室

総括・修了証授与

2-4 医療安全対策

(1) 薬機法等改正に伴う体制の整備

薬局における医薬品の業務に係る医療の安全を確保するための基本理念及び安全確保に関する具体的方策等の周知徹底を図るために、薬学講習会において「医療安全管理講座/患者の訴えから副作用を推察するための臨床推論」の講習を行った。

(2)薬局版ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業への協力と会員薬局登録及び報告促進等調剤事故防止対策の徹底

調剤報酬における特掲診療料の「地域支援体制加算」の施設基準では、実績要件に、疑

義照会により処方変更がなされた結果、患者の健康被害や医師の意図した薬効が得られないことを防止するに至った事例を提供した実績を、薬局機能情報提供制度において「プレアボイド事例の把握・収集に関する取組」として「有」とすることが求められている。このことにより、日本医療機能評価機構が運営するヒヤリ・ハット事例報告登録薬局に登録し事例を報告する参加薬局は年々増加をしている。2022 年 12 月末日現在の都内参加薬局数は、5,097 件(参考: 2021 年 12 月 4,862 件・2020 年 12 月 4,632 件・2019 年 3,694 件)となった。

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業第 26.27 回報告書及び 2021 年度年報を地区 薬剤師会へ周知した。

直近の第 27 回報告(報告期間 2022 年 1 月~6 月) において、事業参加登録は 43,166 薬局、調剤に関して 9,293 事例、疑義照会に関して 45,376 事例、他計 73,000 余事例が報告されている (参考: 2021 年比較 41,948 余薬局、調剤 9,849 事例、疑義照会 45,000 余事例、他計 72,000 強の事例)。

ほかに、医療事故収集等事業の「医療安全情報」No.185~No.196 と報告書第 68~72 回の薬剤関連部分や、日本薬剤師会に報告された調剤事故事例(令和 3 年度版)を情報提供し、薬局における事故未然防止の周知を図った。

(3) 調剤過誤発生後の的確な対応と弁護士紹介

平成 27 年に医療事故調査制度が施行され、東京都に設立された医療事故調査等支援 団体連絡協議会が公表した提言を回覧した。

調剤過誤でトラブルとなり相談のあった件について顧問弁護士への相談の橋渡しを 行った。

(4) 東京都医療安全支援センターへの協力

令和4年度中に薬局・薬剤師に対する苦情は2件受付けている。苦情の内容として、 薬剤師の態度・言動に関すること、医薬品の副作用に関すること、各1件であった。

(5) 使用済み注射針回収事業の継続と今後のあり方の検討

使用済み注射針回収事業は東京都全域の地区薬剤師会で実施継続されている。事業開始以来 21 余年が経過し、患者や地域住民、地域行政にも事業の意義が広く浸透している。

令和4年度は、回収専用容器を16万個作成し、地区薬剤師会あるいは地区薬剤師会の事業を支援する行政に対して1個あたり110円にて有償頒布を行うとともに、医薬品空容器を使用済み注射針回収容器として再利用するための専用シール、容器封緘シールを作成・配布した。また、新規参加薬局91件に対しても事業参加支援を行った。また、

都内全域で 17 万 8 千本強(昨年度より 0.5%増加)の容器が回収されたとの報告を地区 薬剤師会より受けた。

(6) 薬剤イベントモニタリング(DEM)事業への協力

DEM 事業は、日本薬剤師会において 2002 年度より、薬局が医薬品の適正使用に一層 貢献することを目的として実施されている事業である。

この事業は「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、新薬として薬価収載されて1年が経過し、長期投薬が可能となって広く使用されるようになった医薬品(新薬4品目、比較薬4品目、計8品目)を対象として調査が実施され、調査対象医薬品を使用した方に発生したイベント内容並びにその発生が新薬と比較薬の間で異なるか等について調査が行われた。

DEM事業の実施にあたり、地区薬剤師会を通じて、DEM事業周知のための薬局用説明書等を会員薬局に配布し、データ収集への協力を呼びかけた。また、本会ホームページ(会員用)に日薬が用意した報告画面へのリンクを作成するなど適宜整備を行った。

2-5 都民への広報対策

(1)健康サポート薬局の役割、かかりつけ薬剤師・薬局の役割等、各種事業の都民へ の周知

「薬と健康の週間」の時期に合わせ、東京都が作成した「かかりつけ薬剤師・薬 局」及び「健康サポート薬局」等の機能を説明したチラシを、店内外に分かりやすく 示せるよう会員薬局に配布し、都民への周知を行った。

(2)「地域連携薬局」、「専門医療機関連携薬局」認定制度の都民への周知

「薬と健康の週間」の時期に合わせ、東京都が作成した地域連携薬局等の制度開始 等の内容を説明したチラシを、店内外に分かりやすく示せるよう会員薬局に配布し、 都民への周知を行った。

(3) 安全・適正な医薬品使用のための情報提供

「令和4年度 東京都重複多剤服薬管理指導事業」

「東京都国民健康保険運営方針」では、被保険者の健康保持増進及び医療費適正化の 観点から、重複多剤服薬患者に関して被保険者に対する保険指導や残薬解消を目指す取 組により適正服薬の促進が求められているが、都内区市町村での取組には未実施地域が 多く課題が山積している。

東京都より標記事業の委託を受けて、国民健康保険の被保険者の健康保持増進及び医

療費適正化を推進することを目的として、関係機関と連携し、区市町村が行う重複多剤 服薬者に対する服薬管理・指導等の支援を行うとともに、被保険者の医薬品適正使用に 対する意識向上を図る事業を実施した。

「重複多剤服薬管理指導(モデル事業)」

令和4年度は、モデル事業の最終年度として、荒川区、大田区、中野区及び八王子市の4地区と江戸川区、渋谷区及び墨田区の新たに4地区を加えた計7地区のモデル区市町村において、服薬管理・指導等の支援事業を実施した。モデル区市町村に服用医薬品数が一定以上の患者や複数の医療機関で処方を受けている患者等を本事業の対象者として抽出し、参加同意を得られた患者に対し、各地区薬剤師会の会員薬局による服薬管理指導を実施した。服薬管理指導実施件数は69件であった。

事業実施地区の増加もあり、前年度の服薬管理指導実施件数 45 件から 20 件以上対象 患者の抽出が増加した。本モデル事業は 3 年計画であり本年度が最終年度となった。令 和 5 年度からはより多くの地域で薬剤師会と区市町村との連携による重複・多剤服薬者 対策を実施していく事が課題である。

(実施期間:令和4年9月から同年12月まで)

	荒	大	中	八	江	渋	墨	
使用様式	JII	田田	野	王	戸	谷	田田	計
X /	/'1	рц	-1	子	JII	ТН	р р н	μι
	区	区	区	市	区	区	区	
薬剤服用歴管理指導票	1	6	0	00	17	7	C	CO
(様式A)	1	О	3	29	17	1	6	69
服用薬剤管理指導報告書	1	C	0	0.5	0	C	_	40
(様式B)	1	6	3	25	3	6	5	49
服薬相談薬剤管理実施	1	6	3	20	17	7	E	GO.
報告票 (様式C)	1	О	3	29	17	1	5	69

(4) 安全・適正な医薬品使用のための「お薬手帳・電子お薬手帳」普及啓発

平成28年4月より施行された「健康サポート薬局」の基準に、かかりつけ薬局としての基本的機能におくすり手帳の活用が明記された。

各薬局が安全・適正な医薬品使用のための都民への情報提供に積極的に取り組めるよう、改訂版を新規で作成し頒布した (1.3万冊(前年度約1.3万冊、一昨年度約1.3万冊))。

また、薬と健康の週間では薬局及び地区で開催された街頭相談所において、カレンダ

一付き地下鉄路線図に啓発内容(お持ちください おくすり手帳)(「おくすり手帳」は、 おくすりを安全に使うためのあなたの大切な記録帳です。)をイラストつきで印刷し配 布した。

3. 医療保険対策

3-1 医療保険対策

(1) 医療保険等関連情報の収集と伝達

調剤報酬の請求等に関する質問については随時回答し、適正な調剤報酬の確保に務めた。なお、下記の質問受付回数は計1,900件を上回った。

また、各種の医療保険関連通知、制度改正などはその都度地区薬剤師会に伝達した。

[月別質問件数]

月	質問件数	月	質問件数	月	質問件数
4 月	268	8月	101	12 月	146
5 月	162	9月	178	1月	105
6 月	163	10 月	165	2 月	206
7月	130	11月	113	3 月	229

関東信越厚生局管内 10 都県薬剤師会社会保険担当者協議会は、年1回1都9県持ち回り開催しており、令和4年度は千葉県薬剤師会が主催し、35名が出席した。令和5年2月26日開催のWeb会議に、医療保険担当役員2名(傍聴1名)、医療保険委員1名が出席した。

(2) 適正な保険請求業務の指導

(3-1) (3) 「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成・検討」の項を参照)。

(3) 「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成・検討

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更に伴う新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱いの内容等を掲載した「国民健康保険調剤必携」を発行した。特例評価に関する取扱いを反映した別表3及び別添3、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更に伴う診療報酬上の臨時的な取扱い、電子処方箋等に係る資料等を掲載し、地区薬剤師会を通じて全会員保険薬局に配布し適

正な請求の確保を図った。

また、調剤報酬点数表一覧を作成し、患者が閲覧できる「薬局内の掲示物」として、地区薬剤師会を通じてすべての会員保険薬局に配布を行った。

「保険調剤のてびき」の発行

令和4年度の調剤報酬改定の内容及び保険調剤に関する関係法令を解説した「2022年改訂版保険調剤のてびき」を発行(有償頒布)した。また、本書籍発行にあたり "2022年改訂版保険調剤のてびき編集ワーキンググループ"を組織し(全6回開催)、書籍の内容や使い勝手を検討のうえ作成した。本書は日常の業務の中での活用性を重視し2分冊1セットとして5,500セットを発行した。現時点で4,200余セットを有償頒布している。2020年度版との主な変更点は、ICTの利活用やデジタル化への対応として「保険薬局におけるDX」について解説した。

(4) 薬剤師の倫理観の醸成

令和元年度より管理薬剤師を対象として、薬剤師が社会に対して果たすべき責務、管理薬剤師に求められる薬局管理のあり方や法令遵守事項等について解説する研修会を東京都との共催で実施している。

令和 4 年度は都内薬局に従事する薬剤師に対し、今般の薬剤師の役割の変化を踏ま え、それに対する気づきや行動変容を求める内容で東京都との共催により日本教育会館 においてオンラインを併用し開催した。

なお、開催に際し、新型コロナウイルス感染症対策として、手指消毒の徹底や受講者のマスク着用も厳格化した。さらに、受講者には着席場所を申告することで研修会終了後に受講者から感染が判明した際の接触者情報の把握環境も整え対応した。

【第1回 薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会】

開催日時:令和5年1月8日(土) 10:30~12:35

開催場所:日本教育会館 一ツ橋ホール

受講者:317名

内 容:

1. 本研修会の趣旨について

東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

東京都福祉保健局 健康安全部 薬務課長 中島 真弓

2. モデル・コア・カリキュラム改訂と医療人に求められるプロフェッショナリズム 昭和大学 副学長・薬理科学研究センター長・医学部薬理学講座 教 授 木内 祐二

3. 看護師の立場からのコンプライアンスについて

公益社団法人 東京都看護協会 危機管理室 次長 坂井 浩美

【ライブ配信(第1回) 薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会】

開催日時:令和5年1月8日(土) 10:30~12:35

開催場所:日本教育会館 一ツ橋ホール

受講者:1,847名

内 容:同上

【第2回 薬局薬剤師のためのコンプライアンス研修会】

開催日時:令和5年1月8日(日) 14:00~16:05

開催場所:日本教育会館 一ツ橋ホール

受講者:135名 内容:同上

(5) 社会保険地区指導者等の育成及び協議会の開催

保険薬局における保険薬剤師の質的向上及び保険調剤の適正化を図ることを目的として、調剤の取扱いや調剤報酬の請求等に関して、地区において先駆的な立場を目指す若手地区会員への研修会を開催した。

【第1回 医療保険地区指導者養成講座】

日 時:令和5年2月4日(土) 18:00~21:00

開催場所:TKP神田ビジネスセンター 7階

受講者:31名

次 第:

18:00	~	18:10	Р	挨拶・主旨説明 東京都薬剤師会 副会長 上野浩男	10分
18:10	~	19:10	Р	基調講演「薬学的管理指導について考える」 東京都薬剤師会 医療保険委員会 委員長 伊澤慶彦	60分
19:10	~	19:15	Р	「地区医療保険指導者の役割について」 東京都薬剤師会 理事 田極淳一	5分
19:15	\sim	19:35	S	SGD (アイスブレイク)	20 分
19:35	~	19:40	Р	テーマ① 「会員からの相談にどう答えるか」 東京都薬剤師会 理事 町田奈緒子	5分
19:40	\sim	20:20	S	SGD (6G)	40 分
20:20	\sim	20:50	Р	発表・討論(発表 3 分×6G、討議 12 分)	30 分
20:50	\sim	21:00	Р	総括・閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 根本陽充	10分

【第2回 医療保険地区指導者養成講座】

日 時:令和5年2月25日(土) 18:00~21:00

開催場所:TKP神田ビジネスセンター 7階

受講者:30名

次 第:

18:00	~	18:05	Р	挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充	5分
18:05	~	18:35	Р	基調講演「患者側からみた薬剤師の役割」 東京都薬剤師会 医療保険委員会 副委員長 山田 弘志	30分
18:35	~	18:40	Р	「患者のニーズと実際の薬剤師業務を勘案した 算定要件とは」 東京都薬剤師会 理事 田極 淳一	5分
18:40	\sim	19:40	S	SGD (6G)	60 分
19:40	~	20:20	Р	発表・討論(発表 3 分×6G、討議 22 分)	40 分
20:20	~	20:50	Р	「関東信越厚生局東京事務所における立会の立場から」 東京都薬剤師会 常務理事 根本 陽充	30分
20:50	~	21:00	Р	総括・閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男	10分

(6) 保険薬局の経営等に関する各種調査

令和4年度は、

- ・『令和4年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(令和4年度調査)』
- ·『令和4年度医薬品価格調査』

等の対象として無作為抽出された会員薬局等に日本薬剤師会の依頼により、地区薬剤師会に周知依頼を行った。

(7)後発医薬品の使用促進と後発医薬品データベースの充実

後発医薬品の安定供給については、会員から寄せられた苦情などの情報を収集し、厚生労働省医政局経済課にその都度情報提供を行っている。令和4年度は37件の意見及び情報が寄せられ、厚生労働省並びに日本薬剤師会に情報提供を行った。

また、このような状況に鑑み、会員薬局における医薬品の不足状況や使用率等に関する調査アンケート(令和3年度2回実施済)を令和4年度も会員薬局の管理薬剤師に対して実施し、公表した。

令和4年8月「第3回後発医薬品に関する流通及び対応状況に関する調査」633通 後発医薬品比較サイトの登録医薬品データの更新及び「薬価基準新規収載品」の追加 登録を行い、最新情報の提供に努め、第 14 回目となる地域医薬品使用実態調査から得られた個々の後発医薬品の調剤回数を本サイトデータに反映した。

また、令和2年度に作成した集計ソフトを用いて薬局の後発医薬品採用銘柄の選定指標(メーカー、原産国、「地域医薬品使用実態調査」及び全国健康保険協会の使用実績を加味した指標)データを整理した。

(8) 地域医薬品使用実態調査の実施

東京都内において処方箋により交付されている医薬品の使用実態、すなわち交付された医療用医薬品の医薬品名、調剤回数、調剤数量及び備蓄薬局数並びにその医薬品がどのような特別な作業を伴う調剤(例えば、自家製剤、計量混合及び一包化など)あるいはどのような薬学的管理(服薬管理指導、かかりつけ薬剤師指導、各種情報提供、在宅患者訪問薬剤管理指導など)を伴って患者に交付されたかなど、地域における医薬品の使用実態と調剤実態を明らかにすることを目的として第14回目を実施した。

さらに、後発医薬品の使用実態を明らかにし、過去のデータと比較することで後発医薬品使用の進捗状況を把握するとともに、都民への後発医薬品に関する正しい知識の普及と安定供給のための基礎資料を得ることを目的とした。

電子媒体で調剤報酬を請求する薬局を対象とし、地区薬剤師会が区市ごとに保険薬局数の1/5に相当する任意に選定した薬局、都内全体では1,200薬局を調査対象とした。

調査対象月及び対象者は、令和 4 年 10 月調剤分の被用者保険、国民健康保険及び後期高齢者医療保険の加入者とし、調査対象薬局の電子レセプトデータから "患者"及び"調剤した薬局"並びに"処方箋発行医療機関"にかかわる一切の個人情報を電磁的に削除した医薬品等に関するデータのみを抽出し、解析用データとした(7.(4)「後発医薬品の備蓄に関する情報提供」の項を参照)。

(9) 広域医療機関等、処方箋応需に係る諸問題への対応

「薬局薬剤師の業務及び薬局の機能 に関するワーキンググループとりまとめ ~薬剤 師が地域で活躍するためのアクションプラン~」において、対物業務の効率化の具体的 な対策 (アクションプラン) として "院外処方箋における事前の取決め (プロトコール) に基づく問合せ簡素化"が例示されているが、地域で行う取り組みに関して地域限定的 な対応とならぬよう「フリーアクセス」を担保し、患者目線に立った運用に努めるよう 地区職域会長会や医療保険地区指導者講習会において周知した。

(10) 対人業務の充実に向けた I C T の利活用やデジタル化への対応

電子処方箋やオンライン資格確認等の導入・取扱い方法等について、地区薬剤師研修 会の都薬アワーでの講演、2022 年版保険調剤のてびき及び令和 4 年度国民健康保険調 剤必携への通知文等の掲載により周知を図った。

3-2 介護保険制度の適正な運用の指導と高齢者対策

(1) 在宅薬剤管理業務の拡充のための調査・研修会の実施

急速な高齢化に対応すべく構築が進められている地域包括ケアシステムに関し、在宅療養への薬局・薬剤師の参画を推進することを目的に「在宅療養支援促進事業」を実施している。令和4年度はその一環として『在宅医療に於ける薬剤師の看取り期への関わり』をメインテーマに在宅療養時を通じたサービス提供に関わる多職種との連携について、医師、訪問看護師との意見交換を行いそれぞれの職種の職能を尊重したうえで各患者に対し最適な療養の提供に繋げる為に『必要とされる連携』について検討する「在宅療養多職種連携研修会」を日本教育会館にて開催した。本研修会では薬局薬剤師、病院薬剤師、訪問看護師ら演者による質疑応答の場も設けた。

開催日時:令和5年1月28日(土)18:00~20:30

開催場所:日本教育会館 3階 一ツ橋ホール

受 講 者: 申込者 393 名中 297 名(受講率 75%)

内容:

司会:東京都薬剤師会 理事 町田 奈緒子

1. 開会挨拶

東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 基調講演

「地域のチームで患者さんを見守るために、今、薬剤師に求めること」

医療法人社団悠翔会 理事長・診療部長 佐々木 淳

3. 「訪問看護師が期待する地域医療における連携について」

東京都訪問看護ステーション協会 副会長

田園調布医師会立訪問看護ステーション 管理者 田中 千賀子

4. 「薬局薬剤師の看取り期における関わり」

公益社団法人 東京都薬剤師会 理事 伊藤 威

5. 質疑応答

座長:東京都薬剤師会 在宅医療支援事業WG 副委員長 前田 桂吾

同 委員 會田 一惠

6. 開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 上野 浩男

4. 医薬品等薬事情報対策

(1) 会員に対する安全・適正な医薬品使用の啓発のための情報収集・提供

①薬事情報課(医薬品情報室)利用状況

薬事情報課は医薬品情報室として設置されて以来 47 年目を迎えた。医薬品情報のみならず医療情報、健康食品情報、アンチ・ドーピング、薬事関連法規等の各種の薬事情報の収集・提供に努めている。また、インターネット等を利用して会員に対する情報提供を充実させ、利用者へのサービス向上に取り組んでいる。

【会員等に対する情報活動(令和4年4月~令和5年3月)】

(問合せ件数)

令和4年4月	34 件	10 月	37 件
5 月	40 件	11 月	25 件
6月	34 件	12 月	26 件
7月	25 件	令和5年 1月	23 件
8月	16 件	2 月	29 件
9月	27 件	3 月	42 件
		合 計	358 件

(問合せ者別集計)

①薬局	41 人	(11.4%)
②病院・診療所	7 人	(2.0%)
③卸	0 人	(0%)
④管理センター	1人	(0.3%)
⑤製薬会社	3 人	(0.8%)
⑥医療関係者	10 人	(2.8%)
⑦その他	296 人	(82.7%)
合 計	358 人	

(問合せ事項別集計)

	全体		医療従事者・関係 者		一般	
①保険・法規関 係	29 件	(7. 3%)	19 件	(27.5%)	10 件	(3. 1%)
②医薬品一般	38 件	(9.6%)	1 件	(1.5%)	37 件	(11.4%)
③副作用・中毒	26 件	(6.6%)	0 件	(0%)	26 件	(8.0%)
④薬理・疾病	33 件	(8.4%)	2 件	(2.9%)	31 件	(9.5%)
⑤薬剤学的事項	7件	(1.8%)	1 件	(1.5%)	6件	(1.8%)
⑥製剤識別	2 件	(0.5%)	1 件	(1.5%)	1 件	(0.3%)
⑦ドーピング	227 件	(57. 5%)	40 件	(58.0%)	187 件	(57. 4%)
⑧その他	33 件	(8.4%)	5 件	(7. 3%)	28 件	(8.6%)
合 計	395 件		69 件		326 件	

問合せ者数、問合せ件数ともに前年よりもやや減少した。

問合せ者別にみると、一般都民からの問合せがもっとも多く、次いで薬局薬剤師、医療関係者と続く傾向は変わらない。

問合せ事項の内訳としては、一般の方からのドーピングに関する問合せが約 6 割を占めた。

②医薬品情報提供事業

1) DI 速報 (FAX 等) の発行

厚生労働省医薬品・医療機器等安全性情報の概要 No. 391~399 9 回 新薬情報 No. 140~144 5 回

2) 広域病院採用医薬品のお知らせの発行

都内広域病院から連絡があった採用医薬品、採用中止医薬品等の情報を月ごとにまとめ、地区職域薬剤師会会長会あるいは地区薬剤師会宛にメールにて周知を行った。

(2) インターネットを利用した各種薬事情報提供の推進

東京都薬剤師会ホームページ「医薬品等情報ページ」では、独自に作成した「新薬情報」、「添付文書改訂のお知らせ」を随時掲載するとともに、「医薬品・医療機器等安全性情報」の最新号にリンクを貼り、会員への周知に努めた。また、冊子「DI レター」「医薬品情報」については、発行後、PDF 形式にて掲載している。

(3) 都民のための「おくすり相談窓口」業務の充実

道府県薬剤師会が作成した Q&A 集等参考書籍、データを収集した。

(4) 都民のための「健康食品に関する安全性情報」提供のための情報収集

東京都及び東京都医師会と協力し、健康食品によると疑われる健康被害情報の収集に 努め、東京都へ16件の被害情報を報告した。

会員から広く被害事例を収集するため、「健康食品情報共有シート」を年に2回、都薬雑誌に同封した。また、地区薬剤師会の協力を得て、2022 年 10 月に開催の「薬と健康の週間」に開設された街頭相談所を利用して、都民に対し情報収集を行った。新型コロナウイルスの影響により、街頭相談所を開設することが困難な地区においては、会員薬局に対して直接情報収集を依頼した。なお、本事業の周知・協力依頼を目的とした、都民向けチラシ「健康食品・サプリメントの摂取によってこんな悩み抱えていませんか?」、「健康食品・サプリメント情報シール」を作成して、「薬と健康の週間」に開設された街頭相談所で配布した。

また、東京都より発出された健康食品との関連が疑われる健康被害事例の収集への協

力依頼文書(前期分)を薬学講習会で受講者に配布したほか、後期分の協力依頼文書、健康食品との関連が疑われる健康被害事例(平成 18 年 7 月~令和 4 年 11 月)をまとめた冊子「健康食品に関する安全性情報共有事業」、チラシ「サプリ・健康食品の摂取で体に違和感がでていませんか?」を地区薬剤師会経由で会員薬局に配布した。

(5) 関係諸団体との連携、情報収集

厚生労働省、日本薬剤師会と連携し、医薬品やその副作用等に関する情報の収集に努めた。また、東京医薬品工業協会主催の研修会(オンライン)等へ参加し、医薬品情報収集への協力を求めた。

5. 衛生試験所で行う試験検査対策

(1) 随意試験:会員薬局の調剤及び販売業務向上に資する医薬品試験及び情報提供

医薬品は、必要に応じて試験検査を実施し、その基準に適合しないもの、異物が混入し、又は付着しているものは販売・授与のみならず輸入や貯蔵・陳列が禁止されている。それを取扱う薬局の開設者及び管理者は、必要に応じて医薬品の試験検査を実施することが、薬機法及びその施行規則で義務付けられている。

これに該当する医薬品が今年度は2検体都内薬局より依頼された。その内訳は漢方製剤1検体及び分包された調剤済み医薬品に対する患者クレーム対応1検体であった。

漢方製剤は漢方薬の煎剤で、微生物汚染の懸念が持たれていたものであり、第 18 改正日本薬局方「生薬及び生薬を主たる原料とする製剤の微生物限度試験法」を行った結果、総好気性微生物の集落数が検出された。煎剤は最終剤形が液体であり腐敗しやすいため用時調製になっている。

クレーム検体は、分包した酸化マグネシウムを誤ってカロナールと印字し患者に渡したため、酸化マグネシウムであることを確認してほしいとのことであった。第 18 改正日本薬局方「定性反応」を行った結果、酸化マグネシウムと確認された。

薬局より本報告によって患者クレームは解消したとのことであった。

(2)計画的試験:試験所契約の薬局が製造・販売する薬局製剤の承認規格試験

薬局製剤として提出された37種類75検体を試験した結果、内服薬では、①規格成分不検出、含量過多及び含量不足、②規格成分不検出、③含量過多、④含量過多及び含量不足、外用薬では、⑤含量不足の理由から各1検体計5検体が基準に外れるとして、不適合と判定した。

これらを製造した薬局には速やかに結果を報告するとともに、その処方・規格の確認

及び製造記録の再確認を依頼した。なお、これらの不適合製剤の販売は中止していただいている。

令和4年度薬局製剤(37種類)の承認適合試験結果

	処方数	検体数	適合	不適合
1) 漢方薬(切断生薬)	18	25	25	0
2) 生薬製剤(生薬末)	4	4	4	0
3) 化学薬品を主とする内服薬	7	32	28	4
4) 外用薬	8	14	13	1
合計	37	75	70	5

(3)薬局製剤原料ビャクジュツ末の成分変化

薬局製剤を製造する薬局で保管されている日局ビャクジュツ末の含有成分に疑義を生じたことから、日局ビャクジュツ末を独自に購入し、含有成分試験を行った。また、日局ビャクジュツ末を40℃で保管し、経日的な成分変化を調べた。その結果、TLC上で成分に大きな経日変化が生じることが明らかとなった。

(4) 薬局製剤プロジェクトチームの研修に伴う品質試験

薬局製剤プロジェクトチームにより開催された4回の研修会で受講者それぞれが調製した解熱鎮痛剤2号Aの1包について高速液体クロマトグラフィー(HPLC)を用いて定量試験を行い、個別の結果書を作成した(2-2(12)健康サポート機能、適切な医薬品提供体制構築に関する薬局製剤の普及の項を参照)。

(5) 日本薬剤師会が実施する全国統一試験(医薬品試験に係る精度管理試験) への協力・参画

日本薬剤師会が実施する全国統一試験(医薬品試験に係る精度管理試験)を受託し、本 試験所の内部精度管理試験としても活用した。今年度はエストリオール定量試験を行い 日本薬剤師会に結果を報告した。なお、令和3年度の結果については指摘事項も特にな く、各県薬のデータとの比較においても良好との通知を受けた。

(6) その他

外部精度管理試験として、厚生労働省で実施する「登録試験検査機関間比較による技能試験」に参加し、今年度はカルベジロールの定量及び純度試験を行い、結果を厚生労働省(国立医薬品食品衛生研究所薬品部)に報告した。なお、令和3年度の結果につい

ては指摘事項も特になく、問題ないとの通知を受けた。その他に、第 55 回日本薬剤師会学術大会(宮城県仙台市開催)では『含量規格から外れた感冒剤 3 号 A に関する考察』と題し発表した。

6. 「図書企画・編纂・出版」事業

(1) 会員に対する情報提供メディアとしての『都薬雑誌』の企画・編集

会員にとって身近であり、すぐに活用できる情報誌となることに留意しながら企画・ 編集を行い、月刊誌「都薬雑誌」を12回発行した。特徴ある企画を、以下に挙げる。

世界で数百万人の命を救う救世主となった mRNA 型ワクチンをわかりやすく解説した「mRNA 型の新型コロナワクチンはどこがすごいのか」を掲載するとともに、SARS-CoV-2 感染治療薬として承認された「ラゲブリオ®カプセル 200 mg」や「パキロビッド®パック」について、その解説を「新薬情報アップデート」にいち早く掲載し、情報提供した。また、コロナ禍の中、地域に応じて様々な工夫を凝らしながら実施された薬剤師による支援活動をシリーズ「コロナ禍での薬剤師の活動」で紹介し、各地区でのより効果的な支援活動につなげる参考に供した。

薬薬連携における情報共有のためのツールのひとつであるトレーシングレポートの活用方法やその書き方を解説するシリーズを企画し、「服薬情報提供書の運用と書き方のヒント」「あなたも診療に役立つトレーシングレポートが書ける」を掲載した。

医療安全について学ぶための企画シリーズ「薬局ヒヤリ・ハット事例から学ぼう」、保険調剤を適切に実施いただくための企画シリーズ「令和 4 年度 調剤報酬改定のポイント」、加えて薬剤師の基礎知識として「加齢黄斑変性ってなに?」「東京都薬用植物園の植物たち」「とろみ剤の科学」「『怒り』との付き合い方」「薬剤師の法的責任と患者からのクレーム対応」などを掲載した。

地域医療に着目した企画としては、シリーズ「泌尿器科開業医の日頃の診療」「ご存知ですか?鍼灸師の治療」「高齢者のトレーニング」「障害支援区分とは?」を掲載した。

地域の在宅医療に取り組む薬局薬剤師に着目した企画としては、シリーズ「小児在 宅医療」「患家で起こす薬剤師革命」、歯薬連携「在宅医療における歯科医師と薬剤師 の連携によるオーラルフレイル予防への取り組み」を掲載した。

本会が令和3年度に実施した「地域連携薬局についての現状と意識調査」「学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査」のアンケート調査結果を紙面で報告することで、本会の活動状況を広く周知した。加えて、シリーズ「GAKU 先生に訊いてみよう」では、2022年4月1日より開始した(公社)東京都薬剤師会生涯研修認定制度の活用法についてわかりやすく解説した。

その他企画として新シリーズ「海外での大学院生活と現地での暮らし」「音楽家と病気」など、多岐にわたる話題を取り上げ、本会会員に提供した。

会員からの意見、要望を広く集めるための新たな試みとして、会員と双方向のコミュニケーションをとる場として「トヤク雑誌くいず」を6月号よりスタートした。

また、都薬会員用ホームページに「都薬雑誌バックナンバー」第44巻(2022年発行)を掲載し、44年間分のバックナンバーを会員が閲覧し活用することを可能とした。

(2) 『医薬品情報』・『D I レター』の発行

東京都からの委託を受け、令和4年7月~令和5年3月まで医薬品情報No.1~5、DIレターNo.1~4を各々隔月に発行した。医薬品情報では主に医薬品の使用上の注意改訂、副作用について解説したほか、今年度は、「不整脈について」として第1~4回 志賀 剛東京慈恵会医科大学 臨床薬理学 教授に執筆いただいた原稿を掲載した。また、DI レターには医薬品適正使用情報等を掲載した。

(3)調剤報酬関連の冊子の企画、編纂

(3-1(3)「「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成・検討」の項を参照)

7. 医薬品・情報管理センター事業への対策

(1) 医薬品・情報管理センターを拠点とする薬事情報提供活動の推進

「薬と健康の週間」用資料、医薬品情報、DI レター、薬事関係資料、偽造処方箋情報及び医療保険情報などを提供し、管理センターの情報中継機能を支援した。

(2) 医薬品・情報管理センター備蓄医薬品検索システムの維持・管理

平成27年7月にシステムの改修を実施し、新たに添付文書情報の表示機能や後発医薬品比較サイトとの連携等の機能を追加し利用者の利便性の向上を図った。また、医薬品マスター等の更新を適宜行い、システムの安定運用に向けた対応を継続的に実施した。

(3)薬局間の備蓄医薬品検索システムの維持・管理、今後の在り方の検討

(7. (2)「医薬品・情報管理センター備蓄医薬品検索システムの維持・管理」の項を参照)

(4)後発医薬品の備蓄に関する情報提供

令和 4 年 10 月調剤分を対象にした第 14 回地域医薬品使用実態調査で得られた調査 結果の一覧表を掲載するとともに、全医薬品の調剤回数を後発医薬品比較サイトのデー タに反映させ、最新情報の提供に努めた。

- ①後発医薬品の調剤回数は全医薬品対比 54.3%、調剤数量は同 49.3%、薬剤料は同 19.3%であった。
- ②汎用医薬品における後発医薬品変更率は、アロプリノール錠 97.6%、レバミピド錠 74.8%、アムロジピン錠 86.1%、ロキソプロフェン Na 錠 81.9%、ファモチジン錠 81.9%、カルボシステイン錠 83.7%、テプレノンカプセル 77.2%、ランソプラゾール錠・カプセル 89.7%、トラネキサム酸錠・カプセル 34.8%、エチゾラム錠 59.9%、カルボシステインシロップ 70.6%、カルボシステインドライシロップ 72.5%、ツロブテロールテープ 56.3%であった。
 - (5) 医薬品・情報管理センターを核とした医薬品(一般用含む)分譲業務の検討 管理センターの医薬品販売の利用状況は、【資料 5】のとおりであった。

(6) 医薬品・情報管理センター運営に関する支援

平成 25 年度に医薬品・情報管理センター設置運営基準を示し、「医薬品・情報管理センターの設置及び運営に関する覚書」を各センターと取り交わした。現在は、地区薬剤師会が運営する医薬品・情報管理センター運営要綱の提出を受け、当会にて確認及び保管等の支援を行っている。

8. 「薬事衛牛・公衆衛牛」事業

(1) 都民に対する一般用医薬品等の適正使用の啓発とお薬相談会の実施

(8. (7)「薬と健康の週間」事業の頁を参照)

(2)『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施

本年度も東京都の委託を受けて、「薬事関係法規教本 2022 年版」、自主点検表を作成し、地区薬剤師会を通じて各会員薬局・店舗に配布した。また、薬事衛生自治指導員に対して下記のとおり講習会を実施し、薬事関係法規教本や自主点検表の内容説明のほか、巡回指導時の留意事項や報告書の記載方法等について説明を行った。

【薬事衛生自治指導員全体講習会】

開催日時:令和4年9月10日(土)17:30~19:30

開催場所:TKP 御茶ノ水会議室大ホール

受講者: 204名

内容:

司会:東京都薬剤師会 理事 三溝 学

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 最近の薬務行政について

東京都福祉保健局健康安全部 薬務課長 中島 真弓

3. 薬事関係法規教本 2022 年版について

東京都薬剤師会 薬事委員会 委員長 関口 博通

4. 自治指導事業と巡回指導について 東京都薬剤師会 理事 犬伏 洋夫

5. 閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 森田 慶子

昨年の「2021年追補版」発行以降の改正点ついてまとめ、関係法令の周知を行った。 自主点検内容については、昨年同様、薬と健康の週間の時期に、実際に巡回して相互チェックを実施し、不備な点があればその場で改善いただくよう解説した。

なお、日本薬剤師会においても会員薬局・店舗の医薬品販売制度における法令遵守状況の確認を目的として、「医薬品販売制度対応に関する自己点検」を実施したため、日本薬剤師会の自己点検項目に対応した項目のみを巡回指導実施報告から抜粋し、集計結果を報告した。

(3) 薬機法の定着のための施策の実施

(8. (2)『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施の項を参照)

(4)薬物乱用防止啓発事業への協力

都内の青少年を対象に薬物に対する正しい知識及び乱用の恐ろしさや弊害を啓発するため、東京都の委託を受け、各地区において青少年薬物乱用防止講習会を実施した。 60名の薬物専門講師等を含む本会会員により小中学校、高等学校、職業能力開発施設 等において146回の講習会が実施され、延べ13,349人が受講した。

今年度実施報告数は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響からコロナ禍前の予定実施回数には及ばず、昨年度実施報告数とほぼ同数となった。

また、本会に実施報告があった会員学校薬剤師による担当校における今年度の薬物乱用防止講習会の報告数を合わせると 171 回の講習会が実施されており、延べ 15,086 人が受講したこととなる。

【令和4年度 薬物乱用防止講習会 実施報告数】

	担当校以外で本会会員が実施した薬乱防止講習会	担当校で会員学校薬剤師が 実施した薬乱防止講習会*	報告数合計
講習会実施回数(回)	146	24	171
受講者人数(人)	13, 349	1, 737	15, 086

^{*60}名の薬物専門講師等を含む本会会員薬剤師のうち8名と、学校薬剤師6名から担 当校で実施した薬物乱用防止講習会について報告いただいた。

東京都が実施している「薬物専門講師証明制度」の周知に努め、交付申請に係る事務を行い、交付が円滑に行われるよう協力した。今年度、申請のあった会員のうち証明の要件を満たす26名に薬物専門講師証明書が交付された。これにより、東京都が実施している薬物専門講師証明制度による本会会員の有効期限内証明書交付者数は令和4年10月1日現在、75名となった。

また、東京都の薬物乱用防止対策への協力依頼を受け、「東京都不正大麻・けし撲滅運動啓発用ポスター」「東京都『ダメ。ゼッタイ。』普及運動啓発用ポスター・リーフレット」「麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動啓発用ポスター・パンフレット」「薬物乱用防止啓発用リーフレット『健康に生きる 恐ろしい薬物乱用』『今こそストップ!薬物乱用』」等を各地区及び職域薬剤師会に配布した。

本会公衆衛生委員会作製の、小学校高学年を対象とする「薬物乱用ダメ!ゼッタイ!」フラッパー型啓発資材、並びに中学生及び高校生を対象としたフラッパー型啓発資材「薬物乱用ダメ!ゼッタイ!大麻編」は、今年度も地区薬剤師会をはじめ、会員薬剤師、東京都薬物乱用防止推進協議会等に頒布し、薬物乱用防止講習会等で広く活用された。

(5) 禁煙及び受動喫煙対策の周知徹底と啓発

本会では、2011年10月より薬剤師の生涯教育の一環として、禁煙支援薬剤師認定制度をスタートさせ、禁煙指導の意義を理解し、禁煙支援・指導方法の正しい知識を持ち、喫煙者へ禁煙相談、禁煙プログラムを適切に提供できる認定禁煙支援薬剤師を養成し、認定禁煙支援薬剤師等を通して禁煙活動に取り組んでいる【2-1(2)「禁煙支援薬剤師認定制度の推進」の項を参照】。

また喫煙は本人だけでなく、周囲にいる人にとってもさまざまな疾病の遠因となっていることを都民に正しく伝達することで、都民に対する禁煙及び受動喫煙対策に係る普及啓発活動に協力した。

本会公衆衛生委員会作製の、小学校高学年を対象とした受動喫煙に関するフラッパー

型啓発資材「受動喫煙に NO!!」は、今年度も地区薬剤師会をはじめ、会員薬剤師等に頒布し、会員学校薬剤師による薬物乱用防止講習会やくすり教育等で広く活用された。

(6) 健康日本21 (第二次) に基づいた、健康増進活動への協力と推進

健康増進法に基づき策定された、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針の具体的な計画である健康日本 21(第二次)に基づき、厚生労働省が実施する国民一人ひとりが食生活改善の重要性を認識し、理解を深め、日常生活での実践を促進すること等を目的とした食生活改善普及運動の推進に取り組んでいくよう地区及び職域薬剤師会への周知に努めた。

また食生活改善普及運動と同時期に実施された健康増進普及月間についても地区及 び職域薬剤師会へ周知した。

(7) 『薬と健康の週間』 事業の実施

「薬と健康の週間」(10月17日~23日)において、日本薬剤師会、厚生労働省、東京都及び関係機関と協調し都内47地区で「薬の街頭相談所」を開設した。街頭相談所と薬局等に下記のポスターをはじめ各種資料を配布し、都民へ薬の正しい使い方等の啓発並びに情報発信を行った。

【ポスター、資料等の配布】

「薬と健康の週間」(ポスター)―1薬局/店舗1枚

「薬の無料相談」(ポスター) ―1 会場 2 枚

「薬との上手なつきあい方」 -1 会場 100 部(1 薬局/店舗 5 部)

「知っておきたい薬の知識」 -1 会場 200 部(1 薬局/店舗3部)

「東京都薬局機能情報提供システム t-薬局いんふぉ」-1 会場 300 枚(1 薬局/店舗2部)

「地下鉄路線図」都薬作成 -1 会場 300 枚 (1 薬局/店舗 70 枚)

「薬の相談記録」(個票) -1 会場 100 枚

「薬物乱用ダメ!ゼッタイ!大麻編」―1 会場 50 部

「健康食品 情報共有シート」 -1 会場 50 枚

「健康食品・サプリメントの摂取によって『こんな悩み抱えていませんか?』」

一1 会場 200 部

「もうお持ちですか?かかりつけ薬剤師・薬局 ご存じですか?健康サポート薬局」

一1 会場 300 枚 (1 薬局/店舗 2 部)

「ジェネリック医薬品Q&A」—1 会場 50 部

「医薬品医療機器総合機構ポスター」―1薬局/店舗1枚

「医薬品副作用救済制度ポスター」―1薬局/店舗1枚

「医薬品副作用救済制度」 —1 薬局/店舗 10 枚

「患者副作用報告」 —1 薬局/店舗1枚

「健康食品クリアファイル」 -1 会場 40 枚

「スポーツをがんばっている人 ご存じですか?意図しないドーピング」

一1 会場 100 部

「あなたのくすりいくつ飲んでいますか?」 -1 会場 100 枚 「あなたのくすりいくつ飲んでいますか?」 (カードサイズ) -1 会場 100 枚 「あなたのくすりいくつ飲んでいますか?」 (ポスター) -1 薬局/店舗 1 枚

【薬の街頭相談所の開設】

47 地区において街頭相談所またはコロナ禍において各薬局で相談所を開設し、薬事に関する無料相談等を実施し、都民の薬に対する関心に応え、PR 効果をあげた。また、介護相談や薬物乱用防止、かかりつけ薬剤師・薬局、健康サポート薬局の啓発活動等も実施した。なお、薬事相談については東京都病院薬剤師会の協力を得て実施した。今年度はコロナ禍において1地区が街頭相談所と各薬局での相談所の開設をやむを得ず中止した。

☆街頭相談所開設場所は次のとおりである(カッコ内は地区薬剤師会名)。

千代田区、日本橋、京橋、港区、新宿区、文京区、下谷、浅草、墨田区、江東区、品川区、目黒区、大田区、世田谷区(世田谷・玉川砧)、渋谷区、中野区、杉並区、豊島区、北区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区、西多摩、八王子市、日野市(南多摩)、多摩市(南多摩)、稲城市(南多摩)、府中市、調布市、狛江市、小金井市(多摩中央)、国分寺市(多摩中央)、立川市(北多摩)、昭島市(北多摩)、国立市(北多摩)、東大和市(北多摩)、武蔵村山市(北多摩)、町田市、武蔵野市、三鷹市、西東京市(西武)、小平市(西武)、東久留米市(西武)、清瀬市(西武)

(8) 自殺防止対策普及啓発活動への協力

「自殺対策基本法」及び「自殺総合対策大綱」に基づき、「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現に向けた、厚生労働省からの啓発活動及び支援策等の推進協力依頼を受け、地区薬剤師会を通じて広報用ポスター(自殺予防週間並びに自殺対策強化月間)を会員薬局に掲示依頼するとともに、会員薬剤師が自殺対策のゲートキーパーとして地域関係機関と連携の上、各種相談支援等に取り組んでいくよう周知した。

また、東京都からの協力依頼を受け、近年の自殺者数の増加対策として、自殺者数及 び自殺死亡率の減少を目的とした東京都の新規事業「自殺対策における専門的人材育成 事業 (ゲートキーパー研修)」の周知に努めた。

(9) スポーツファーマシスト、薬剤師のアンチ・ドーピング対応の推進と、各種スポーツ団体とのアンチ・ドーピング活動の協力推進

都内のスポーツ選手等の相談を受け付ける都薬アンチ・ドーピングホットラインには、本年187件の相談があり、薬事情報課における全問合せ数の約6割を占めた。アンチ・ドーピング活動については、東京都より「医薬品の適正使用推進事業」として助成を受けており、「意図しないドーピング(うっかりドーピング)」を防止するために「アンチ・ドーピング講習会」の開催、「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」の配付を行った。

本年度の「アンチ・ドーピング活動 地区薬剤師会指導者講習会」は、薬学生のアンチ・ドーピング教育を目的に、各地区のアンチ・ドーピング活動担当者、実務実習エリア責任者を対象に講習会を行った。

公認スポーツファーマシストへの活動支援として、「公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会」を開催し、本年度は全国から222名のスポーツファーマシストの参加を得た。

「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック 2022 年版」は地区薬剤師会を通して全会員薬局に配付した。

その他、ドーピング防止のための資材として一般向け啓発パンフレットを作成し、薬と健康の週間で配布を行った。

【令和4年度 アンチ・ドーピング活動地区薬剤師会指導者講習会】

開催日時:令和4年11月26日(土) 17:00~19:15

開催場所:日本教育会館7階中会議室

受講者:57名

内 容:

司会:東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

1. 挨拶 東京都薬剤師会 副会長 髙橋 正夫

2. 実務実習内のアンチ・ドーピングに関する講義について

アンチ・ドーピング委員会 委員長 髙松 謙悟

3. 大学におけるアンチ・ドーピング教育の現状と課題

東京薬科大学 薬学部 漢方資源応用学教室 准教授 横須賀 章人

4. 競技団体におけるスポーツファーマシストの活動

アンチ・ドーピング委員会 副委員長 對崎 利香子

5. 薬局薬剤師のアンチ・ドーピング活動

アンチ・ドーピング委員会 委員 篠木 真帆

6. まとめ

東京都薬剤師会 理事 小林 百代

7. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 貞松 直喜

【公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会】

開催日時:令和5年2月26日(日)13:00~16:00

開催場所:ビジョンセンター東京 京橋

受講者: 222名

内容:

司会:東京都薬剤師会 理事 小林 百代

1. 開会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 髙橋 正夫

2. アンチ・ドーピングに関する最新の動向

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構 専務理事 浅川 伸

3. 2023 年禁止表と 2023 年 TUE 国際基準の改定と注意点

公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構 医療・科学部 部長 鈴木 智弓

4. 対談形式

セイコーグループ株式会社 山縣 亮太 アンチ・ドーピング委員会 委員 篠木 真帆 アンチ・ドーピング委員会 委員 松島 美奈

5. パネルディスカッション

司会 アンチ・ドーピング委員会 委員長 髙松 謙悟

6. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 貞松 直喜

(10) 感染症及びアレルギー疾患の医療体制対策の推進と協力

令和4年秋に新型コロナウイルス感染症の新規陽性者数の増加及び季節性インフルエンザの同時流行に備え、「新型コロナウイルス抗原定性検査キット」の取扱薬局等をリスト化し、厚生労働省において取扱状況を一元的に周知できるよう整備した。検査キット取扱薬局等に対しては、地域住民が検査キットの販売に関して薬局等の内外でわかりやすく示せるよう貼付用ポスターを作成し配布した。

また、東京都アレルギー疾患対策検討委員会では、当会役員が委員となり活動に協力し、東京都薬剤師会 生涯学修プログラムでは、代表的な疾患 (Common disease) における薬物療法についての実践スキルアップを目指している。

9. 組織強化対策

(1) 会費のあり方を含めた会員増加策の検討

会員数が増加傾向に転じない現状において、本会の将来を見据えて適正と思える会費額と、会費の構成のあり方について検討を行った。また、本会の活動の広報等を目的に、 平成23年3月に運用を開始した「とやく携帯メルマガ」の配信は令和5年3月31日で 通算 2830 号となった。

(2) 公益法人制度への対応

平成25年4月1日に公益社団法人として登記して以後、新法人法に基づく定款並びに諸規程の定めに則って会務を遂行している。

定款及び法人法の定めにより、令和 5 年 6 月の通常総会終了を以て任期満了となる 役員について、役員選考規程及び会長立候補・副会長候補者の選出に関する規則に基づ き、役員選挙管理委員会が統括して、次期会長候補者 1 名、次期副会長候補者 4 名を第 101 回通常総会(令和 4 年 6 月 18 日開催)において選出している。

また、2年ごと7月末日までに実施する旨の定款及び法人法の定めがある代議員・予備代議員について、代議員選挙管理委員会が統括して、次期代議員選挙の実施を令和5年3月1日に公示し、立候補の受け付けを開始した。

(3) 会員管理システムの維持と拡充

会員管理システムの安定的な運用を目的に、本年度も引き続き、各種 OA 機器の整備・ 拡充を行った。

(4) インターネット等を活用した本会と地区・職域薬剤師会間の連携強化

新型コロナウイルス感染症対策を含め、会議のあり方について検討を重ね、Web 等を用いて地区及び職域薬剤師会等の会議が開催できるよう対応を行った。また、平成 25 年度に運用を開始した、地区薬剤師会への電子メールや Google フォームを用いて会議やアンケート情報収集にも活用している。さらに、平成 27 年 4 月 1 日にリニューアルしたホームページについても、適宜更新を行い、最新の情報発信に努めている。

(5) 職種部会(製薬部会・卸勤務薬剤師部会・行政薬剤師部会)活動への支援 各事業などにおいて、連携を図り支援を行った。

(6) 学校薬剤師活動への支援と地区担当者会議及び日本薬剤師会学校薬剤師東京 ブロック連絡会議の実施

東京都薬剤師会では例年、各地区薬剤師会学校薬剤師担当役員等を対象に「東京都薬剤師会学校薬剤師担当者会議」と「日本薬剤師会学校薬剤師東京ブロック連絡会議」を開催してきたが、オンライン形式によるハイブリッド開催への変更で多人数の参加が可能となったことから、今年度より、学校薬剤師活動の充実、諸課題の解決を図るため、日本薬剤師会・東京都薬剤師会・地区薬剤師会の学校薬剤師担当役員等が具体的に協議する「学校薬剤師東京ブロック連絡会議」と、学校薬剤師活動の支援を目的とする、

都内全学校薬剤師を対象とした「学校薬剤師研修会」に分け、下記のとおり開催した。

「学校薬剤師東京ブロック連絡会議」では、日本薬剤師会学校薬剤師部会から令和4年度の活動報告と新型コロナウイルス感染症への対応に関する説明、並びに学校薬剤師をとりまく最近の話題提供があり、情報を共有した。

「東京都薬剤師会 学校薬剤師研修会」では、学校環境衛生基準の一部改正を受け、その改定ポイントについて解説した。加えて、都内全ての学校薬剤師が格差のない統一した活動を実施することを目的に、本会が調査を実施している「学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査」において、令和3年度に実施した「コロナ禍における学校の換気(二酸化炭素検査のあり方)」等の調査結果について報告があり、回答のあった学校薬剤師は各担当校で適切に学校薬剤師活動を実施している実態が明らかとなった。また、調査に関連するデジタル測定器について、推奨される機器の要件や測定方式に関する資料を供し、適切な測定方法を紹介した。調査結果は【資料6】のとおりである。

今年度は、令和 3 年 4 月 1 日より改正施行されたキシレン検査の実態と、コロナ禍で電子教材の普及が著しいことから照度検査の実態について、Google フォームを利用したオンラインでの回答方式で令和 4 年 12 月 6 日(火)~令和 5 年 1 月 23 日(月)の期間に調査を実施し、1,070 件の回答を得た。

【学校薬剤師東京ブロック連絡会議】

開催日時:令和4年11月23日(水・祝) 9:30~10:45

開催場所:東京都薬剤師会館 3・4 階会議室(オンライン会議併用)

出 席 者:各地区薬剤師会 学校薬剤師担当役員・学校薬剤師活動に関して指導的立場にある本会会員学校薬剤師 65名

内容:

1. 開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 日本薬剤師会代表挨拶 日本薬剤師会 副会長 田尻 泰典

3. 学校薬剤師部会活動の現状報告と課題等について〜学校薬剤師活動の充実等に 向けて〜 日本薬剤師会 学校薬剤師部会長 富永 孝治

4. 東京ブロックにおける学校薬剤師活動等に関する協議

【東京都薬剤師会 学校薬剤師研修会】

開催日時: 令和4年11月23日(水・祝) 11:00~12:50

開催方法:オンラインによるライブ配信

受 講者:182名

内容:

1. 学校環境衛生活動における学校薬剤師の役割~「学校環境衛生基準〕解説 2022 の

改定ポイント~

東京薬科大学薬学部 医療薬学科 社会薬学教育センター

社会薬学研究室 教授 北垣 邦彦

2. 「令和3年度 学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査」 結果報告 東京都薬剤師会 理事 小林 百代

3. 質疑応答

4. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 副会長 一瀬 信介

(7) 講習会・研修会実施における担当部署間の連携強化

研修会・講習会担当役員及び役員会での検討を踏まえ、令和 4 年度の活動テーマを「更なる地域貢献を目指して ~生涯学修に取り組もう~」に決定し、各研修会・講習会は、このテーマに沿って企画・実施された。

10. 災害時における医療救護対策

(1) 災害時等、医療救護体制への協力

東京都は都内での大規模災害発生時における医療機能の円滑な確保のため、平成 24 年度より都内 12 ヶ所に二次保健医療圏を単位とした「地域災害医療連携会議」を設置 し、この連携会議に地区薬剤師会と供に当会から該当地区の役員が各々出席した。

(2) 災害時医療救護に係る次期世代「災害時薬事活動リーダー」の養成研修会の開催

東京都の災害対策の方針、災害時における薬剤師の役割、病院と薬局・薬剤師と医薬品卸売業者等との多職種の連携、災害医療の特殊性等を理解し、災害薬事コーディネーターとして地区での災害医療に貢献できる薬剤師リーダーの知識を習得することを目的とした「災害時薬事活動リーダー研修」を2回実施した。当該研修では東京都病院薬剤師会、東京医薬品卸業協会にも参加頂き、また地区ごとにグループを作成し、より地区の実情を見据えた図上訓練を行った。

【第1回 災害時薬事活動リーダー研修】

開催日時:令和4年10月16日(日) 9:00~17:00

開催場所: AP日本橋(中央区)

参加者:36名(地区薬剤師会16名、東京都病院薬剤師会10名、

東京医薬品卸業協会10名)

参加地区:品川区、目黒区、大田区、世田谷区(世田谷、玉川砧)、渋谷区

内容:

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 東京都の災害医療体制について

東京都福祉保健局医療政策部救急災害医療課

3. 東京都における災害対策~災害時における医薬品等の供給体制~

東京都福祉保健局健康安全部薬務課

4. 薬剤師会・班の活動について

東京都薬剤師会 常務理事 貞松 直喜

5. 災害派遣における自衛隊の活動について

防衛省陸上自衛隊東部方面総監部医務官室

6. 図上訓練 (DIG・災害想定の俯瞰)

日本赤十字社医療センター 丸山 嘉一

7. 図上訓練(薬事関係者の連携)

東京都医師会 大桃 丈知

8. 図上訓練総括

9. 修了証授与・閉会

東京都薬剤師会 副会長 髙橋 正夫

【第2回 災害時薬事活動リーダー研修】

開催日時:令和4年11月27日(日) 8:50~16:50

開催場所: AP日本橋(中央区)

参加者: 32名(地区薬剤師会13名、東京都病院薬剤師会9名、

東京医薬品卸業協会10名)

参加地区:西多摩、八王子市、南多摩(日野市、多摩市、稲城市)、町田市

内 容:

1. 挨拶 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

2. 東京都の災害医療体制について

東京都福祉保健局医療政策部救急災害医療課

3. 東京都における災害対策~災害時における医薬品等の供給体制~

東京都福祉保健局健康安全部薬務課

4. 薬剤師会・班の活動について

東京都薬剤師会 常務理事 貞松 直喜

5. 災害派遣における自衛隊の活動について

防衛省陸上自衛隊東部方面総監部医務官室

6. 図上訓練(DIG・災害想定の俯瞰)

日本赤十字社医療センター 丸山 嘉一

7. 図上訓練(薬事関係者の連携)

東京都医師会 大桃 丈知

8. 図上訓練総括

9. 修了証授与・閉会

東京都薬剤師会 副会長 髙橋 正夫

(3) 防災訓練への参加協力

東京都では、都心南部を震源とする非常に強い地震が発生し、都内の広い範囲で震度 6 弱以上を記録した想定で、令和4年9月4日(日)に「令和4年度東京都・品川区合同 総合防災訓練」を実施した。

当訓練において、東京都福祉保健局健康安全部では「医療救護活動訓練」を行った。本会は災害対策基本法に基づく指定地方公共機関となっており、当会役員、品川区地区より薬剤師班を3班編成し、訓練参加した。訓練会場の品川区立しながわ中央公園(品川区)において、災害薬事センター、救護所エリアを設置し、医薬品等供給訓練(医薬品等供給要請訓練・医薬品搬入訓練)、調剤・服薬指導訓練、OTC供給訓練、及びトリアージ訓練に参加した。

(4) 大災害時における薬局 BCP(事業継続計画)の活用支援

当会ホームページ上に薬局 BCP (業務継続計画)の作成用ひな型を掲載し、災害発生 時の薬剤師の活動、限られた資源で営業の継続、早期に再開する基盤となるよう支援を 行った。

(5) 災害時等における地区薬剤師会との連携体制の整備

災害時に会員の安否確認を迅速に行うため、平成 28 年度に契約した綜合警備保障株式会社提供の「ALSOK 安否確認サービス」を利用した電子メールでの連絡システムの活用を推進した。令和 4 年度は、地区薬剤師会に対し、システムの理解促進に努め、使用方法及び加入の薦め及び活用方法の説明を行い、予行演習を兼ねたテスト配信を行い、災害時の備えとした。

(6) 東京都国民保護計画への体制整備

役員・職員連絡網についてインターネット網での電子メールを利用した、綜合警備保 障株式会社提供の「ALSOK 安否確認サービス」の導入、連絡試験を実施した。

(7) 新興感染症対策を含めた、「新型インフルエンザ等対策」の推進

新型コロナウイルスの感染拡大の中、東京都が実施するゴールデンウィーク、お盆休み期間及び年末年始の「調剤体制の確保事業」、「PCR 検査無料化事業の実施事業者の募集」、「新型コロナウイルス感染症における経口抗ウイルス薬の薬局への配分等」及び「薬局コロナウイルス抗原定性検査キット(以下、「検査キット」)取扱い薬局等のリスト化に伴う情報提供」等について会員に周知した。

また、「検査キット取扱い薬局」として登録した会員薬局に対し、都民への周知用に ポスターを作成し配付した。

東京都から委託を受けワクチン接種会場でワクチンのシリンジへの分注、薬剤管理、 技術指導及びワクチン接種に係る相談対応等について必要な指導・助言を行うため、本 会役員が複数会場の巡回視察を行い、令和 4 年 4 月から令和 5 年 3 月までの間に 196 日、延べ 671 名が出動した。

感染拡大防止対策として国が実施した、患者宅等に薬剤を配送又は薬局の従事者が届けた場合の費用を補助するための「薬局における薬剤交付支援事業」の請求等の事業に関する業務を行い、令和4年3月1日から令和4年2月末日の間に639薬局から81,703件の請求があった。

現状では、集団接種等の会場において薬剤師には、「ワクチンの調製・シリンジへの 充填作業」、「予診のサポート」として、問診や予診票の確認、ワクチン接種後の経過観 察が期待されている。

今後、新興感染症が発生した場合、迅速にワクチン接種環境を整えることが重要である。昨今の社会情勢に鑑み、薬剤師によるワクチン接種が必要になった際には、即座に対応することができるよう、薬剤師における予防接種研修プログラムが日本薬剤師会によって策定された。本会では下記のとおり研修会を開催し、のべ306名に受講証明書を発行した。

【令和4年度 第1回 薬剤師のための予防接種研修会】

開催日時:令和4年7月24日(日)A班9:30~13:10/B班9:30~14:40

開催場所:杏林大学三鷹キャンパス 看護・医学教育研究棟1階

受講者:A班48名/B班49名

内容:

司会:東京都薬剤師会 常務理事 関根 克敏

I. 開会挨拶

東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

Ⅱ. オリエンテーション

東京都薬剤師会 常務理事 関根 克敏

- Ⅲ. 講義(動画視聴)及びポストテスト
 - 1. 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンに関する基礎知識
 - 2. 緊急時対応の基礎
 - 3. 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種に必要な解剖学の基礎知識
 - 4-1. 医療従事者のための新型コロナウイルスワクチンを安全に接種するための注意とポイント
 - 4-2. 新型コロナワクチン より安全な新しい筋注の方法 2021 年 3 月版
 - 5. 新型コロナワクチン接種時のアナフィラキシーへの対応【医療者向け】

IV. 実技研修

1. オリエンテーション 東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

- 2. ワクチン接種の全体の流れについて 杏林大学病院 小児科 准教授 保崎 明
- 3. ワクチン接種における安全配慮 杏林大学病院 小児科 准教授 保崎 明

4. 筋肉内注射の実際

杏林大学病院 小児科 准教授 保崎 明

5. シミュレーターを用いた実技

全講師

- 6. 質疑応答
- 7. 修了証授与(代表者)
- V. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 会長 永田 泰造 修了証授与人数:111名(役員等含む)

【令和4年度 第2回 薬剤師のための予防接種研修会】

開催日時:令和4年12月4日(日) A班9:30~13:30/B班11:00~15:15

開催場所:杏林大学三鷹キャンパス 看護・医学教育研究棟1階

受講者:A班49名/B班48名

内 容:

I. 開会挨拶

司会:東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

Ⅱ. オリエンテーション

東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

- Ⅲ. 講義(動画視聴)及びポストテスト
 - 1. 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンに関する基礎知識
 - 2. 緊急時対応の基礎
 - 3. 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種に必要な解剖学の基礎知識
 - 4-1. 医療従事者のための新型コロナウイルスワクチンを安全に接種するための注 意とポイント
 - 4-2. 新型コロナワクチン より安全な新しい筋注の方法 2021 年 3 月版
 - 5. 新型コロナワクチン接種時のアナフィラキシーへの対応【医療者向け】

Ⅳ. 実技研修

1. オリエンテーション

東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

- 2. ワクチン接種の全体の流れについて 杏林大学病院 小児科 准教授 保崎 明
- 3. ワクチン接種における安全配慮

杏林大学病院 小児科 准教授 保崎 明 杏林大学病院 小児科 准教授 保崎 明

全講師

- 5. シミュレーターを用いた実技
- 6. 質疑応答
- 7. 修了証授与(代表者)

4. 筋肉内注射の実際

V. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 会長 永田 泰造 修了証授与人数:109名(役員等含む)

【令和4年度 第3回 薬剤師のための予防接種研修会】

開催日時:令和5年2月26日(日) A班9:30~13:30/B班11:00~15:15

開催場所:杏林大学三鷹キャンパス 看護・医学教育研究棟1階

受講者: A 班 49 名/B 班 26 名

内 容:

I. 開会挨拶

司会:東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

東京都薬剤師会 副会長 山田 純一

Ⅱ. オリエンテーション 東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

Ⅲ. 講義(動画視聴)及びポストテスト

1. 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンに関する基礎知識

2. 緊急時対応の基礎

3. 新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種に必要な解剖学の基礎知識

4-1. 医療従事者のための新型コロナウイルスワクチンを安全に接種するための注意とポイント

4-2. 新型コロナワクチン より安全な新しい筋注の方法 2021 年 3 月版

5. 新型コロナワクチン接種時のアナフィラキシーへの対応【医療者向け】

Ⅳ. 実技研修

1. オリエンテーション

東京都薬剤師会 理事 和田 早也乃

2. ワクチン接種の全体の流れについて 杏林大学病院 小児科 准教授 保崎 明

3. ワクチン接種における安全配慮

杏林大学病院 小児科 准教授 保崎 明

4. 筋肉内注射の実際

杏林大学病院 小児科 准教授 保崎 明

5. シミュレーターを用いた実技

全講師

- 6. 質疑応答
- 7. 修了証授与(代表者)
- V. 閉会挨拶

東京都薬剤師会 会長 永田 泰造 修了証授与人数:86名(役員等含む)

11.会員奉仕事業

(1) 学術出版物等の斡旋

令和4年度中に約4,600冊、会員価格にして約2,200万円余の書籍の斡旋を行った。 主な書籍斡旋数は「今日の治療薬2023」、「保険薬事典プラス 令和5年4月版」、「薬 価基準点数早見表 令和5年4月版」、「『学校環境衛生基準』解説2022」などであった。 また、各種研修会に出版社に出店を求め、会員の学術出版物入手の便宜を図った。

(2) 共済制度の運営

東京都薬剤師会共済会は、令和4年12月3日臨時総会をもって解散した。また、日本薬剤師会共済部への加入手続きを含む各種手続きについては事務を代行した。

(3) 制度融資の紹介・斡旋

日本薬剤師会が提携する各銀行よりの制度融資「薬局ローン」について、問い合わせに応対し資料を送付するなどの紹介を行った。

(4) 企業年金保険等及びがん保険の斡旋

会員の厚生事業として、企業年金保険(明治安田生命・ジブラルタル生命・令和4年3月末日現在1名)及びがん保険(アフラック、令和4年3月末日現在の加入47件)の団体契約を継続した。

(5)薬剤師賠償責任保険制度等の周知と加入促進

日本薬剤師会の薬剤師賠償責任保険並びに個人情報漏えい保険への加入について、地 区職域薬剤師会会長会及び本会ホームページへの掲載により会員に周知を図り加入を 推奨した。

(6) 薬剤師資格証申請に係わる業務の推進

日薬認証局により薬剤師資格証(以下 HPKI カード)の発行申請が再開された。日本薬剤師会と東京都薬剤師会は連携して、発行された HPKI カードを申請者本人に交付する際の一連の業務協力の締結を行った。また、交付業務の協力を受諾する地区薬剤師会に向けて、「HPKI カードの取得促進のための地区薬剤師会における交付に関する実務説明会」を開催し、本会と「交付関連業務に関する東京都薬剤師会との連携協力に関する覚書」の締結並びに、「薬剤師資格証等交付関連業務担当者名簿」の提供を行った。

12. その他

(1) 日本薬剤師会の諸施策への対応と提案

ワクチン予防接種研修や生涯学習支援システムについて今後の在り方、医薬品供給 不安問題に関する薬価制度の在り方、電子機器を使用しての処方箋送信・薬剤師の需 給に関する諸課題について、日本薬剤師会の総会において意見具申するとともに、日 本薬剤師会が実施する事業に協力した。

(2) 日本薬剤師会関東ブロック薬剤師会との連携

関東ブロック(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県の各薬 剤師会)の連携を強化するため、以下の関東ブロック会議に出席し日本薬剤師会総会開 催にあたり日本薬剤師会の事業について、意見交換を行う等、連携の強化を図った。

第1回:令和4年5月22日(主催:栃木県薬剤師会) 第2回:令和5年2月5日(主催:神奈川県薬剤師会)

(3) (一社)東京都病院薬剤師会との連携の更なる強化

本会が事務局を担当した「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(3回開催)」における東京都病院薬剤師会会員 修了者計 18 名、及び「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ(1回開催)」における東京都病院薬剤師会会員 修了者計 1 名の研修など、相互協力を行った(2-1.(6)認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び次期改訂内容を踏まえた薬学教育カリキュラムに基づいた実務実習の充実の項参照)。

地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業「無菌調製技能習得研修会」においては、実習サポートのため、東京都病院薬剤師会から出講した病院薬剤師が実習講師として受講者の指導を行った。また、昨年度から開始された「薬薬連携推進事業」では、今年度、東京都病院薬剤師会所属の24施設の薬剤部(科)の協力のもと、事業が展開された。今年度事業の評価・検討を行う「薬薬連携推進関係者連絡会」開催にあたっては、東京都病院薬剤師会から推薦された委員3名が参加し、本会及び東京都医師会の委員とともに今後の事業展開に向けて意見交換を行った(2-3(4)「地域包括ケアシステムへの参画に向けた在宅医療・介護提供体制の整備」の項を参照)。

なお、今年度より、在宅における「がん領域の患者安全管理」を目的とし、東京都が ん診療連携協議会研修部会薬剤師小委員会、東京都病院薬剤師会、東京都薬剤師会によ る3団体合同ワーキンググループを設置し、トレーシングレポートの質改善・課題解決 など薬薬連携をさらに強化していくための研修会を2回開催した。

【第1回東京都がん薬物療法協議会~三団体合同薬薬連携推進研修会~】

開催日時:令和4年12月10日(土) 15:00~17:00

開催方法:Zoomを使用したWeb会議

参加者:425名

内 容:

司会:がん研究会有明病院 薬剤部 舘合 慶一

<基調講演>

1. 「東京都がん薬物療法協議会の発足にあたって」

がん研究会有明病院 薬剤部 薬剤部長 山口 正和

2. 「患者のための医療者協働を考える-戦略的取組みの実行に向けて-」

聖路加国際病院 薬剤部 薬剤部長 後藤 一美

<ディスカッション>

1.「薬薬連携の"理想"を具現化するためには」

司会:がん研究会有明病院 薬剤部 副薬剤部長 清水 久範

ディスカッサント:がん研究会有明病院 薬剤部 薬剤部長 山口 正和

聖路加国際病院 薬剤部 薬剤部長 後藤 一美

東京都福祉保健局健康安全部薬務課 事業連携担当課長代理 森田 貴教

東京医療センター 薬剤部 副薬剤部長 小川 千晶

スエヤス調剤薬局文京店 管理薬剤師 島田 淳史

【第2回東京都がん薬物療法協議会~三団体合同薬薬連携推進研修会~】

開催日時:令和5年3月11日(土) 13:00~18:00

開催方法:ベルサール東京日本橋 及び Zoom を使用した Web 会議

参 加 者:会場 42 名、Web217 名

内容:

司会:がん研究会有明病院 薬剤部 橋本 幸輝

開会の辞: 公益社団法人 東京都薬剤師会 会長 永田 泰造

<基調講演>

1. 「連携の質向上を支える論理思考」

株式会社ワイズマン 商品企画本部 戦略担当専門部長 大山 実

- 2. 「薬薬連携は地域医療の質を向上させる
 - -合同研修会から合同事業へ その進化・深化・真価-

日本経済大学 経営学部・大学院 教授 赤瀬 朋秀

<ディスカッション>

1. 「がん薬物療法用トレーシングレポート普及と質向上に向けた"As is/To be"」

司会:聖路加国際病院 薬剤部 薬剤部長 後藤 一美

(4) (一財) 東京都学校保健会・(一社)東京都学校薬剤師会との連携

学校薬剤師活動に関する情報交換を行い、各種事業に対する相互協力を行った。

(5) 東京都並びに関連官公庁への協力と意見具申

東京都福祉保健局をはじめ関係官庁に対しては、薬事制度・公費負担医療制度等に 関連して連絡を密にし、各種事業に対しては可能な限りの支援・協力を行った。

(6) (公社)東京都医師会・(公社)東京都歯科医師会との連携

東京都医師会・東京都歯科医師会とは、意見・情報交換を行い、各種事業に対する 相互協力を行った。また、平成28年度から、三師会の会員に向けた講演会を年1回開催し、更なる連携強化に向けた取組みを行った。

(7) (公財)日本薬剤師研修センター事業への協力

東京都薬剤師研修協議会として、(公財)日本薬剤師研修センター(以下、研修センター)が開発した薬剤師研修・認定電子システム(PECS)に関する様々な問い合わせに対応し、また、研修センターの研修認定薬剤師制度の変更点等を広く会員に周知するなど、同センターが推進する薬剤師生涯教育事業に協力した。

その他、研修センターの求めに応じ、同センターが主催する「薬剤師生涯学習達成度 確認試験」に東京会場の試験監督として役員2名を派遣した。

(8) (一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構との連携

(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構(以下、関東地区調整機構)が推進する安定した実務実習受入れ体制の維持並びに現行の薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた充実した実務実習の実施に向けて、関東地区調整機構が運営する各種事業(認定実務実習指導薬剤師養成事業並びに実務実習施設割振調整事業等)に対する支援・協力を行った(2-1(6)「認定実務実習指導薬剤師の養成・更新及び次期改訂内容を踏まえた薬学教育カリキュラムに基づいた実務実習の充実」の項及び 2-2(4)「実務実習受入れ態勢の整備」の項を参照)。

(9) 都内薬科大学・大学薬学部との連携

薬学教育に関する各種事業に対し意見・情報交換を行った。薬学教育6年制課程における充実した長期実務実習の適切な実施への支援・協力を要請するとともに、本会が開催する講習会等への支援・協力など、相互協力を行った。

また、「地域薬局への薬学生就職対応事業」についても相互協力を行った

(12. (13)「地域薬局への薬学生就職対応事業の実施」の項を参照)。

(10) 各関連団体・友好団体との交流・連携及びその強化

日本薬剤師会をはじめ、(公社)東京都医師会、(公社)東京都歯科医師会、(公社)東京都看護協会、東京都薬剤師国民健康保険組合、(一社)東京医薬品卸業協会、(公社)東京医薬品工業協会、(公社)東京都医薬品登録販売者協会、(公社)東京薬事協会、(公社)東京生薬協会等の関連諸団体と連携を保ちながら協調を図った。

また、昭和52年に臺北市藥師公會と姉妹会協定を締結し、毎年相互に訪問し、学術

交流会等を通じて親善をはかり、薬剤師の技能の理解を深めている。令和2年初頭より、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、双方の交流は一時中断していたが、令和4年11月、臺北市藥師公會より張文静理事長をはじめ6名が来日し、台北駐日経済文化代表処の李世丙氏同席のもと、姉妹会締結更新のための調印式を執り行うとともに、学術交流を図った。

(11) 都薬会館建設に係わる調査・分析

都薬会館の屋上について、屋上から最上階である7階天井への湿気及び雨漏りの防止を目的として、令和5年1月に既存塗装防水面地下洗浄・ドレン取替・防水トップコート更新等の防水工事を行った。

(12) 会員サービスに対応した事務局機能の充実と質的向上

【会員向け年会費無料クレジットカードの斡旋】

都薬会員ならば年会費が無料となる VISA ゴールドカードの発行を三井住友カード社 と提携し、平成 20 年 11 月から会員に対して斡旋し、令和 5 年 3 月末日現在で 237 名の 会員に対して 313 枚が発行されている。

(13) 地域薬局への薬学生就職対応事業の実施

平成30年度より、本会担当役員と9大学の教員から構成される「地域薬局への薬学生就職対応事業ワーキンググループ(以下WG)」を設置し、同WGの意見等を踏まえ、以下の取組を行った。都内薬科大学・薬学部の就職説明会等に参加し、本会会員が所属する薬局への就職案内を積極的に展開した。令和4年度は帝京大学(オンライン)、昭和大学及び昭和薬科大学より学内企業セミナーへの参画の要請を受け、3大学合計12名の学生に、東京都薬剤師会として、地域薬局の取り組みや、在宅療養の実情、就職先として選択する際の魅力を学生に伝え、参加した学生からの多くの質問や相談に応じた。

令和5年3月末日現在 地区及び職域薬剤師会別 会員数

(人)

地区	現	. 在 会	. 員	数
薬剤師会	А	В	賛助	合 計
千代田区	86	13		99
日本橋	33	11		44
京 橋	51	10	3	64
港区	117	24	2	143
新 宿 区	149	40		189
文 京 区	105	29		134
下 谷	47	10		57
浅草	62	21		83
墨田区	91	23		114
江 東 区	113	51	1	165
品 川	157	46	2	205
目 黒 区	91	25	1	117
大田区	227	90	1	318
世田谷	116	30	3	149
玉 川 砧	117	48	2	167
渋 谷 区	92	18	2	112
中野区	112	28	1	141
杉 並 区	179	78		257
豊島区	115	12	2	129
北区	134	23		157
荒 川 区	73	11		84
板橋区	202	65		267
練馬区	199	76	2	277
足立区	179	49		228
葛 飾 区	162	63	2	227
江戸川区	177	28		205

				(人)
地区薬剤師会	現	在会	員	数
西多摩	111	43		154
八王子市	162	171	2	335
南多摩	128	66	1	195
町田市	117	51		168
府中市	85	2	1	88
調布市	71	13		84
狛 江 市	25	4		29
多摩中央	64	11	1	76
北多摩	152	38		190
武蔵野市	66	37	1	104
三鷹市	43	9	2	54
西武	218	66		284
中計	4, 428	1, 433	32	5, 893
職域	現	在会	員	数
薬剤師会	А	В	賛助	合 計
病 院	0	177	0	177
都 立 病 院 関 連 施 設	0	24	0	24
大正製薬	0	4	0	4
佐藤製薬	0	18	0	18
エスエス製薬	0	15	0	15
小 計	0	238	0	238
直 扱	42	590	18	650
合 計	4, 470	2, 261	50	6, 781

令和4年度 地区薬剤師研修会 受講者数

行 	地区薬名	受講者数			
	地区笨石	第1回	第2回		
千代田区	千代田区	24	23		
中央区	日本橋	15	11		
	京橋	11	9		
港区	港区	26	32		
新宿区	新宿区	25	27		
文京区	文京区	51	46		
台東区	下谷	25	26		
	浅草	22	20		
墨田区	墨田区	31	28		
江東区	江東区	27	30		
品川区	品川区	77	65		
目黒区	目黒区	43	45		
大田区	大田区	69	69		
世田谷区	世田谷	60	51		
	玉川砧	59	55		
渋谷区	渋谷区	23	32		
中野区	中野区	78	61		
杉並区	杉並区	90	79		

生 吐 豆	地区薬名		者数	
17 以区	地区架石	第1回	第2回	
豊島区	豊島区	38	41	
北区	北区	27	28	
荒川区	荒川区	24	26	
板橋区	板橋区	119	107	
練馬区	練馬区	125	142	
足立区	足立区	68	77	
葛飾区	葛飾区	66	74	
江戸川区	江戸川区	70	63	
	多摩中央	23	18	
多摩第一	武蔵野市	22	30	
	三鷹市	19	20	
	府中市	34	29	
多摩第二	調布市	23	16	
	狛江市	15	10	
多摩第三	北多摩	50	63	
タ序为二	西多摩	33	33	
	八王子市	111	90	
多摩第四	南多摩	57	46	
	町田市	27	25	
多摩第五	五 西	59	57	
•				

		第1回	第2回
合	計	1,766	1,704

令和4年度 地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業 報告書

		I I -a		32	II -a		18	II -a		32	II -b		26
			①地域連携研修会		②無i	苗調剤室設置施設実地研修	•	③地 に	域包括ケアシステムの構築 句けた多職種連携連絡会			地域包括支援センターと 連携した住民向け講習会	
		実施日	場所	参加人数	実施日	場所	参加人数	実施日	場所	参加人数	実施日	場所	参加人数
1	千代田区												
2	日本橋												
3	京橋							11月14日	Zoomオンライン	30名	10月23日	中央区保健所	30名
4	港区							10月28日	済生会中央病院・オンライン研修	136名			
5	新宿区	8月2日	Zoom開催	12名				9月21日	Zoomオンライン	155名			
6	文京区							10月16日	文京区立本郷台中学校	22名		文京区シビックセンター 文京区立本郷台中学校	約355名
7	下谷	3月15日	リモート開催	40名	12月14日	桜木薬局 Zoom配信	20名	2月14日	たいとう包括支援センター会議室	20名	WAIVE		
8	浅草	3月15日	Web研修	40名									
-	墨田区	11月9日		22名		墨田区薬剤師会 事務所	12名	10月26日		33名	12月2日	八広はなみずき高齢者支援総合センター	184
10	江東区		Zoomオンライン	30名		江東区栗剤師会事務所	5名	3月1日	Zoom	10名			
11	品川	3月16日	品川区薬剤師会 荏原事務局	90名	2月12日	品川区薬剤師会 休日薬局荏原	16名	3月28日	南大井第2在宅介護支援センター(憩いの場)	11名			
12	目黒区												
13	大田区												
14	世田谷	11月24日	リモート開催	127名				2月9日	14-188 1886年88人月18日422- 報告書依頼済	約200名			
15	玉川砧	7月27日	Zoom開催	116名	2月4日	玉川砧栗剤師会事務所	14名	11月16日	Zoom開催	18名	3月18日	成城ホール	1004
16	渋谷区												
17	中野区	12月6日	中野サンプラザZoom配信	36名				1月18日	中野サンプラザ、Zoom配信	50名	10月29日	帝京平成大学	504
18	杉並区	2月2日	杉並区医師会館3階 講堂	30名				3月9日	荻窪ワイム貸会議室	39名	3月14日	杉並区南会館	74
19	豊島区												
								10月14日 10月19日	滝野川会館 北とぴあスカイホール	32名	11月8日	北とびあ7階 第2研修室	382
20	北区							10月27日 3月9日	北歯科医師会館 Zoom開催	36名 59名			
21	荒川区							9月13日	荒木田ふれあい広場	45名		タやけこやけふれあい館 荒川区立東日暮里在宅高齢者通所 サービスセンター	30% 5%
22	板橋区	10月13日	Web開催	63名	2月18日	板橋区薬剤師会管理センター薬局	2名	11月26日	日本大学医学部付属板橋病院 臨床講堂	30名	11月27日	板橋区グリーンホール	2004
23	練馬区	3月16日	Web開催	60名	3月9日	練馬区薬剤師会 無菌室 + 会議室	8名	3月28日	Web開催	18名	11月30日~3月2日まで	区内の常設型まちかどケアカフェ5か所	各回15名
24	足立区							10月5日 10月12日 11月16日	足立区梅田地域学習センター 西新井ギャラクシティ 西新井ギャラクシティ	55名 63名 54名	9月17日 10月19日	アリオ西新井 1Fフロア 足立区梅田地域学習センター	10% 25%
25	葛飾区	10月17日 1月17日	MCS7c7FZnom	10名	10月29日	水戸薬局在宅医療支援センター	4名		アンケート調査 Zoomミーティング	84名 105名	9月8日	水元憩い交流館 松南パル 子育て広場りぼん	192 232 112
26	江戸川区											熟年相談室なぎさ和楽苑西葛西 江戸川区医師会館	6名 7名
27	西多摩	12月15日	中止	A8 名									
28	八王子市							2月21日	Web開催	91名	10月19日	舘ヶ岡団地集会所	332
29	日野市	2月16日	Zoom開催	23名	10月15日	ノムラ薬局 本部会議室	5名	10月20日	zoom開催	10名程度	2月14日	マザアス日野 カンファレンスルーム	36名
30	多摩市						博						
-	が 相城市						ß						
		1 - 10 -	L / . BRAY	01.0	11860		F /2	1 8 20 5		11.0	0.0100	De FD 中立 本入型	2504
	町田市		オンライン開催	21名		いずみ薬局	5名		オンライン開催	11名		町田市庁舎3階	3504
	府中市		府中市市民センタープラッツ 第三会議室	33名	1月26日	むさし台薬局	10名	12月13日	市民活動センターブラッツ	111名	7月12日	府中市地域包括支援センター	184
-	調布市		調布市市民プラザあくろすホール	13名									
4	狛江市		狛江市薬剤師会 事務局	85名									
36	小金井市	3月17日	Zoom開催	5名				2月20日	Zoomオンライン	6名			
37	国分寺市	3月25日	いずみプラザ Web	20名									
38	立川市	3月16日	たましんRISURUホール5階	27名	2月25日	北多摩薬剤師会、事務所内	2名				12月5日	立川市 さかえ会館	124
39	昭島市	9月21日	オンライン開催	38名	2月25日	北多摩莱剤師会 事務所內	2名	11月20日	昭島エンシス	120名		森の上サロン	164
40	国立市	多 11月25日	Web開催	19名	3月4日	北多摩莱剤師会事務所	2名	7月22日	Web開催	不明	11月4日~25 日	国立市北福祉館 他、全6か所	704
41	東大和市	10月13日	東大和市立保健センター	21名	10月28日	東大和病院C3	5名	8月26日	東大和市役所 & Zoom	不明		東大和市保健センター	84
_	武蔵村山市	10月28日		36名		北多摩薬剤師会事務所	2名		緑ヶ丘地域包括視線センター	20名		お互い様サロン 日の出	174
-	武蔵野市		Zoomオンライン	94名	3,7,10				Zoom開催(武蔵野管理センター薬局)	90名		吉祥寺ナーシングホーム 集会室	124
_	三鷹市	11月16日		33名				17710	morning co-spaces to can be by Mills	2045		おむすびハウス	154
	小平市	7月22日 1月28日	Zoom Eller	54名 54名					Zoom オンライン	62名 40名		おむすひハワス Zoomオンライン	624
16	市村小吉	,,,,,,,,						12月3日	サンバルネコンベンションホール	59名	1 日 27 口	車材山市シルバート材料ンタ	104
	東村山市 西東京市	西 12月20日 武 1月17日	西東京中央総合病院 薬局ホームケアファーマシー	12名				2月2日	ッノハルホコンヘンションホール	56名	1月27日	東村山市シルバー人材センター	104
48	清瀬市		Zoomオンライン	53名	2月25日	明治薬科大学 フロネシス棟 3階	14名	3月11日	Zoomオンライン	24名			
-	東久留米市		Zoomオンライン	53名		明治薬科大学 フロネシス棟 3階	14名		Zoomオンライン	24名			
73	~/田/ニ/	7 VI 10 D		り3石	7/J Z J D	ステノロヤン人体 3階	78			24名		I	

78

令和4年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修《研修会A》地区開催一覧

利断名 時間格目 時間格目 時間格目 時間格目 時間格目 1-1 1-2 1-3 1-3 2-1 2-2① 2-2① 2-2① 2-2① 3-3 演習 まとめ 時間 研修会番号 東京都薬剤師会 6月19日 12:00~16:30 A P東京八重洲 K + L ルーム 109 都薬 150 3,000 3,000 3,000 23 20 20 20 20 20 10 30 20
受講託明書 募集数 一般 会員 1-1 1-2 1-3 2-1 2-2① 2-2② 2-3 演習 まとめ 時 109 都薬 100 4,000 3,000 23 20 20 30 20 20 10 70 30 82 都薬 150 9,000 3,000 25 20 20 30 20 20 10 70 30 32 都薬 28 20 20 20 30 20 20 30 30
受講知
受講託明書 募集数 一般 会員 1-1 1-2 1-3 2-1 2-2① 2-2② 2-3 演習 109 都薬 100 9,000 3,000 23 20 20 30 20 20 10 82 都薬 150 9,000 3,000 23 20 20 30 20 10 32 都薬 28 2,000 3,000 25 20 20 30 20 10
受講託明書 募集数 一般 会員 1-1 1-2 1-3 2-1 2-2① 2-2② 2-2② 2-2② 109 都薬 100 9,000 3,000 23 20 20 30 20 20 82 都薬 150 9,000 3,000 23 20 20 30 20 20 32 都薬 150 9,000 3,000 25 20 20 30 20 20
受講託明書 募集数 一般 会員 1-1 1-2 1-3 2-1 2-2① 2-2① 109 都薬 100 9,000 3,000 23 20 20 30 20 82 都薬 150 9,000 3,000 23 20 20 30 20 32 都薬 28 9,000 3,000 25 20 30 20
受講証明書 募集数 一般 会員 1-1 1-2 1-3 2-1 109 都薬 100 9,000 3,000 23 20 20 30 82 都薬 150 9,000 3,000 23 20 20 30 32 都薬 28 9,000% 3,000 25 20 20 30
受講証明書 募集数 一般 会員 1-1 1-2 1-3 2-1 109 都薬 100 9,000 3,000 23 20 20 30 82 都薬 150 9,000 3,000 23 20 20 30 32 都薬 28 9,000% 3,000 25 20 20 30
受講託明書 募集数 一般 会員 11-1 1-2 1-3 109 都薬 100 9,000 3,000 23 20 82 都薬 150 9,000 3,000 23 20 32 都薬 28 9,000 3,000 25 20
受講証明書 募集数 一般 会員 1-1 1-2 109 都薬 100 9,000 3,000 23 82 都薬 150 9,000 3,000 23 32 都薬 28 9,000% 3,000 25
受講証明書 募集数 全員 発行者 募集数 受講科 109 都薬 100 9,000 3,000 82 都薬 150 9,000 3,000 32 都薬 28 9,000% 3,000
受講教 受講託明書 募集 発行者 109 都薬 82 都薬 32 都薬
受講教 受講託明書 募集 発行者 109 都薬 82 都薬 32 都薬
受講教 受講託明書 募集 発行者 109 都薬 82 都薬 32 都薬
受講教 密行者 109 都薬 82 指薬 83 都薬
版
開催日 時間帯 場所 45 6月19日 12:00~16:30 AP東京八重洲 K+Lルーム 11月3日 12:00~16:30 連合会館 大会騰室 12:00~18:30 ホテル機山館 雅翠の間
開催日 時間帯 5 6月19日 12:00~16:30 11月3日 12:00~16:30 5 9月24日 14:00~18:30
開催日 5 6月19日 5 11月3日 6 9月24日
報 報 報
共催3 1 公益社団法人 2 公益社団法人 3 一般社団法人

※ 区内会員薬局の勤務薬剤師 6,000

令和4年度 健康サポート薬局に係る技能習得型研修《研修会B》地区開催一覧

研修会番号	2022-13-056	2022-13-003
開催 時間 計	270	290
レポート 作成	15	10
タマギ	9	9
演習	210	224
講義 DVD	21	21
全章	10	15
会員 受講料	3,000	0
一般 受講料	9,000	5,000
募集数	120	24
受講証明書 発行者	黎紫	都薬・練薬
受講数	23	13
地幣	連合会館 大会議室	練馬区薬剤師会 会館 (Z00M開催)
岩晶岩	15:00~19:40 連合会	16:00~20:50
開催日	3月4日	4月2日
剤師会名	東京都薬剤師会	練馬区薬剤師会
共開催薬3	公益社団法人 東京者	一般社団法人 練馬

令和4年度 医薬品・情報管理センター 利用実績

3 立 4 江 5 荒 6 武 8 毎 10 世 11 中 12 北 13 三 14 目 15 器 16 品	田区川地区戸川区野区医野区田谷区	実施 (263)実施 (実績不明)実施 (実績不明)実施 (実績不明)実施 (254)実施 (1,025)実施 (55)実施 (実績不明)実施 (実績不明)実施 (実績不明)	1, 842 1, 648 1, 387 1, 311	4, 103 8, 483 11, 406 11, 354	553 1, 490	22, 172
3立4工5后6式8910世11中12北13三14目15器	川地区 戸川区 断 区 野 区 野 区 野 区 田 谷 区	実施 (実績不明) 実施 (実績不明) 実施 (実績不明) 実施 (254) 実施 (1,025) 実施 (55) 実施 (実績不明)	1, 387	11, 406		20, 628
4江5荒6式8毎10世11中12北13三14目15器	戸川区 川 区 蔵 野 区 田谷区	実施 (実績不明) 実施 (実績不明) 実施 (254) 実施 (1,025) 実施 (55) 実施 (実績不明)	1, 387	11, 406		20, 628
5荒6武7杉8練9日10世11中12北13三14目15港16品	川区	実施 (実績不明) 実施 (254) 実施 (1,025) 実施 (55) 実施 (実績不明)	1, 387	11, 406		20, 628
6武7杉8練9日10世11中12北13三14目15港16品	蔵野 並区 馬区 野田谷区	実施 (254) 実施 (1,025) 実施 (55) 実施 (実績不明)	1, 387	11, 406		20, 628
7 杉 8 練 9 日 10 世 11 中 12 北 13 三 14 目 15 港 16 品	並 区 馬 区 野 田谷区	実施 (1,025) 実施 (55) 実施 (実績不明)	1, 387	11, 406		20, 628
8 練 9 日 10 世 11 中 12 北 13 三 14 目 15 港 16 品	馬 区野田谷区	実施 (55) 実施 (実績不明)			1, 490	
9 日 10 世 11 中 12 北 13 三 14 目 15 港 16 品	野田谷区	実施 (実績不明)	1, 311	11, 354		34, 365
10 世 11 中 12 北 13 三 14 目 15 港 16 品	田谷区			11,001	1, 757	35, 927
11 中 12 北 13 三 14 目 15 港 16 品		実施(実績不明)				
12 北 13 三 14 目 15 港 16 品	野区		3, 812	19, 805	1, 339	144, 002
13三14目15港16品		実施(実績不明)	485	1,050	303	2, 324
14目15港16品	区区	実施(実績不明)	1,826	3, 420	826	8, 647
15 港 16 品	鷹地区	実施 (23)	27, 814	13, 259	663	24, 341
16 品	黒 区	実施(実績不明)	1, 560	4, 569	516	10, 395
	区	実施(実績不明)				
17 111	川区	実施(実績不明)	477	1, 492	367	5, 010
17 町	田地区	実施(実績不明)				
18 千	代田区	実施(実績不明)				
19 文	京区	実施(実績不明)				
20 板	橋区	実施(296)	1,622	15, 273	1, 371	43, 691
21 八	王子	実施(実績不明)				
22 江	東区	実施(258)	791	1, 376	391	2, 130
23 渋	谷区	実施(実績不明)				
24 台	東区	実施(実数不明)				
25 葛	飾区	実施(実績不明)				
26 西	武地区	実施(実績不明)		18	14	24
27 墨	田区	実施(実績不明)	603	2, 167	537	2, 297
28 新	宿区	実施(12)	828	1, 085	337	2, 652
29 中	央 区	実施(実績不明)				
30 足	立区	実施(1,408)	1, 760	824	248	1,018
31 京	王地区	実施 (実績不明)				
32 西	夕 麻糾	実施 (実績不明)				
33 多	多摩地	実施 (実績不明)			T	
合	多摩地 摩中央					

令和3年度 学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査 「空気検査 (二酸化炭素)」結果報告

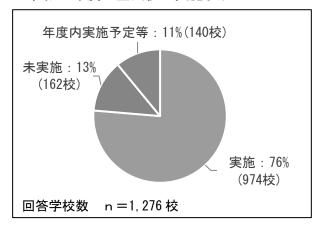
(実施期間:令和3年12月6日~令和4年1月17日)

* 学校種別回答数

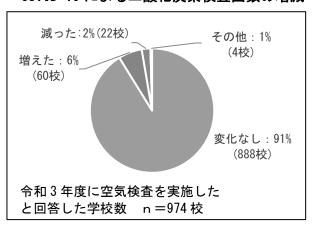
	学校種別	回答数		学校種別	回答数
1	認定こども園	10	7	国立	0
2	公立幼稚園	47	8	私立	11
3	公立小	756	9	義務教育学校	4
4	公立中	346	10	公立小中一貫校	2
5	都立高	73	11	都立中等教育学校	1
6	特別支援学校	26		合計(回答数)※	1, 276

※54 地区中 48 地区より 1,276 校分の回答

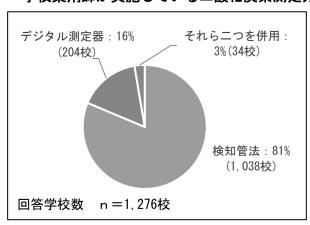
* 令和3年度の空気検査実施状況



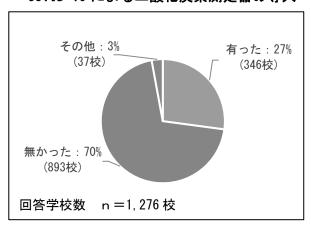
*COVID-19 による二酸化炭素検査回数の増減



* 学校薬剤師が実施している二酸化炭素測定方法



*COVID-19 による二酸化炭素測定器の導入



令和4年度 処方箋統計 -社保+国保(東京都)-

Ħ П	請求件数	片数	処方せん枚数	,枚数	調剤報酬点数	点数	請求薬局数	荜 局数
	件数	対前年同月比(%)	枚数	対前年同月比(%)	点数(千点)	対前年同月比(%)	薬局数	対前年同月比(%)
令和4年4月	6,436,167	102.8	7,656,427	101.0	6,777,546,939	98.9	6,781	101.2
5月	6,178,325	106.2	7,254,399	105.6	6,274,893,418	103.1	6,803	101.1
6月	6,371,384	103.1	7,576,789	101.7	6,580,161,652	100.6	6,810	101.4
7月	6,704,250	107.1	7,986,765	104.8	6,708,064,597	9.66	6,823	101.5
8月	6,478,583	109.5	7,666,245	109.3	6,685,408,105	104.8	6,815	101.1
9月	6,343,690	106.6	7,527,474	106.3	6,686,250,031	103.2	6,830	101.6
10月	6,497,959	103.5	7,738,116	102.8	6,760,252,341	100.5	6,819	101.2
11月	6,525,626	103.9	7,749,990	102.8	6,810,062,660	102.1	6,838	101.3
12月	6,979,190	107.4	8,280,288	106.4	7,561,200,529	103.0	6,833	101.1
5年1月	6,402,744	109.3	7,401,604	108.7	6,719,518,811	103.2	6,828	101.0
2月								
3月								

基金統計月報(社会保険診療報酬支払基金)・診療報酬審査支払業務関係資料(東京都国民健康保険団体連合会)をもとに東京都薬剤師会作成。

【資料8】

処方箋受取率(%)(令和元年10月~令和4年10月調剤分)

---東京都国民健康保険月例報告---公営国保分---

東京都薬剤師会調べ

			_	_	_	_				楽剤師会調へ ■	_
			R1年10月	R2年10月	R3年10月	R4年10月		R1年10月	R2年10月	R3年10月	R4年10月
都	合	計	78.0	77.4	77.6	77.9					
23	区	計	76.9	76.0	76.3	76.7	多摩地区言	80.3	80.2	80.4	80.5
千	代 田	区	73.7	70.2	69.8	73.8	八王子市	82.7	80.8	82.7	82.9
中	. 、	区	77.8	75.6	75.7	76.9	<u> </u>		80.4	79.9	80.0
港		区	66.4	65.2	66.3	67.0	武蔵野市		76.8	74.2	76.0
新	宿	区	74.1	73.0	72.3	73.7	三鷹		81.6	81.4	81.3
文	 京	区	76.9	75.6	76.9	76.2	青梅了		78.8	78.1	77.7
台	東	区	84.4	81.9	82.1	83.5	府 中 7	82.1	82.2	82.5	81.7
墨	田	区	72.6	71.3	72.2	71.8	昭 島 r	77.9	79.8	76.2	80.3
江	東	区	79.1	78.2	78.3	77.7	調布了	79.8	78.8	80.1	79.1
品	Ш	区	80.2	79.6	79.0	80.0	町田市	76.2	77.2	77.0	76.3
目	黒	区	76.0	73.8	75.1	74.8	福生了	83.5	82.8	83.5	84.0
大	田	区	79.4	79.0	78.4	77.8	羽村市	79.5	80.9	78.5	81.2
世	田谷	区	74.4	73.4	73.8	74.8	西多摩君	ß 80.1	79.5	79.5	80.6
渋	谷	区	70.0	68.6	68.7	71.4	あきる野市	1 86.0	85.7	86.4	84.9
中	野	区	79.1	78.5	79.0	79.1	日 野 7	80.5	81.8	80.8	81.6
杉	並	区	75.7	75.9	75.6	75.8	多摩市	77.0	77.6	80.0	79.5
豊	島	区	72.7	73.1	73.3	74.9	稲 城 7	78.4	80.5	78.9	79.6
北		区	76.5	75.4	76.3	76.6	国立市	76.8	77.9	79.9	78.2
荒	Ш	区	75.1	72.3	73.1	73.2	狛 江 市	79.0	77.2	76.5	78.4
板	橋	区	79.3	79.3	78.4	79.6	小金井市	73.6	74.3	72.5	74.8
練	馬	区	78.9	79.2	80.5	79.5	国分寺市	77.2	78.9	78.3	77.9
足	立	区	80.6	79.2	79.5	79.7	武蔵村山市	5 85.0	83.5	85.3	82.6
葛	飾	区	78.9	77.9	77.9	78.4	東大和市	1 83.4	82.6	84.9	84.5
江	戸川	区	74.2	73.1	73.8	75.2	東村山市	5 85.0	86.0	84.7	84.4
							清瀬市	78.9	80.9	80.1	81.2
							東久留米市	86.8	87.6	88.0	88.2
							西東京市	5 81.3	80.6	81.2	80.5
							小平市	79.6	78.6	80.8	80.1
							島し、	79.5	80.8	82.5	78.1

受取率: 東京都薬剤師会=処方せん枚数÷(医科外来診療実日数×0.68+歯科診療実日数×0.11)×100 (注)東京都薬剤師会は投薬率(上記0.68又は0.11)を固定しているのに対し、日本薬剤師会は直近4年間の 平均値(23年度は医科を0.67、歯科を0.105)を採用(日薬方式は受取率は若干高くなる)。